

平成30年度(平成29年度実績)

教育委員会点検評価報告書

みよし市教育委員会

目 次

第1章 教育委員会点検評価報告の概要

1	背景	1
2	報告書の構成	1
3	計画的な教育行政の流れ（P D C A サイクルの確立）	2

第2章 教育振興基本計画における各事業の実施状況

1	平成30年度（平成29年度実績）教育委員会の点検評価について	3
2	教育振興基本計画の概要	4
3	20の作戦（重点施策）の実施状況報告	6
4	体系別全施策の実施状況報告	46
	I 次代を担う子どもをみんなで大切に育てる	46
	II 生涯にわたって学び続ける市民を応援する	51
	III 「ふるさとみよし」を創る市民を育てる	54

第3章 教育委員会の活動等に関する事業実施状況報告

1	教育委員会議	56
2	教育委員県外視察研修	59
3	教育委員学校訪問	60
4	各種行事への参加	61

第4章 学識経験者による意見

1	みよし市教育振興基本計画の平成29年度施策実施状況	63
	をめぐる成果と課題　—学校教育を中心に—	
2	みよし市教育振興基本計画の平成29年度施策実施状況	
	をめぐる成果と課題　—社会教育・生涯学習を中心に—	

第1章 教育委員会点検評価報告の概要

1 背 景

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が平成19年6月に改正され(平成20年4月1日施行)、毎年、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することが義務付けられました。

また、点検及び評価を行うにあたっては、学識経験者の知見の活用を図ることが規定されました。

【参考】『地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）』

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 報告書の構成

教育委員会の点検評価については、まずは教育振興基本計画の各施策に関する事務事業の内部点検を実施し、教育委員会議の開催状況、研修の実施状況などを加え報告書を作成いたしました。

事務事業の内部点検に関しては、みよし市教育振興基本計画推進委員会に提出された資料を基に、基準年（教育振興基本計画が策定された平成27年を基本とする）からの各教育施策の進捗状況が分かるような点検・振り返りとしました。特に、重点施策である「20の作戦」については状況を詳しく説明し、他の施策については概要を掲載しました。

学識経験者には、内部点検の内容について評価をいただき、教育行政や学校教育、社会教育全般にわたる広い見地から所見をいただきました。

ここに、その結果を報告書としてまとめ公表いたします。

今後も、本市の教育をよりよいものとするため、学校・家庭・地域・行政の知恵と力が発揮できるような教育施策を進めてまいりますので、住民のみなさまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

3 計画的な教育行政の流れ（P D C Aサイクルの確立）

基本理念「学ぶ楽しさで、人と人とのつなぐ」のもと、次のようなP D C Aサイクルを確立し、計画を着実に推進することで、目指す人間像に迫ります。

Plan 計画の幅広い周知

計画を推進するには、教育の主体である家庭・地域・学校と、それらの取り組みを支援する行政とが、同じ目標をもつことが大切である。

本計画は、各関係機関に配布するだけでなく、「広報みよし」などを通して市民にも広く伝えることで、幅広い層への浸透を図る。また、市の教育に重要な役割を果たす学校に対しても、さまざまな機会をとらえ本計画の実現を促していく。

Do 計画的な計画の実施

教育委員会をはじめとする市の関係部局が総力を挙げて家庭・地域・学校を支援し、計画の実施を進める。特に、「20の作戦」に係る重点施策には、毎年の進行計画が設定されているので、それに従い各事業を実施していく。

本計画に示された計画は、95項目にも及ぶ幅広いものなので、最も効果が上がるよう優先順位を考えながら計画的な実施に努める。

Check 計画の推進状況の把握と評価

本計画を強力に推し進める原動力となる「20の作戦」に係る重点施策を中心に、取り組みの進捗状況とその成果の状況を、毎年事務局が取りまとめる。成果の状況については、行政が行う各種調査に加え、2年に一度教育に関する市民アンケートを行い、その結果から把握をする。

その取りまとめたものを基に、「みよし教育振興基本計画推進委員会」を開催し、計画の推進状況を、外部の有識者や教育に関わる市内の各団体と共に把握し、その課題や問題点を探る。

また、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(平成19年4月)に示されている、教育委員会の点検・評価でも、本計画の推進状況を外部委員に点検・評価していただく。

Action 計画の改善

「みよし教育基本計画推進委員会」や教育委員会の点検・評価で、有識者や市民の代表からいただいた助言を基に、必要に応じて見直しを加える。この見直しは毎年行うが、計画策定から5年が経過する平成33年には、大幅な中間見直しをする予定である。

時代の変化にもしっかりと対応し、常に計画に改善を加えることで、実効性のある生きた計画とする。

第2章 教育振興基本計画における各事業の実施状況

1 平成30年度（平成29年度実績）教育委員会の点検評価について

みよし市（当時の三好町）の最初の教育に関する計画は、平成15年に、「三好町教育基本計画」として策定されました。本市では、この計画に示された「まちづくりは 人づくり」の理念のもと、さまざまな教育施策に取り組み、着実な成果を上げてまいりました。

その後、子どもを取り巻く環境の変化に応じるため、市民ヒアリングやアンケートを重ねながら多くの市民の声を集め、平成26・27年の2か年をかけて新たな教育計画である「みよし市教育振興基本計画—みよし教育プランー」を策定しました。

この新計画では、95項目・257にわたる総合的な教育施策を進めていくこととなりました。その中でも、特に重要な分野に対しては、年度ごとの進行計画と具体的な成果指標を設定し、「20の作戦」と名付けて重点的に取り組んでいます。平成30年度の点検評価では、特に「20の作戦」の進捗状況を詳細に述べ、他の全施策に関してはその概要をお伝えします。「20の作戦」については、平成29年度の達成状況及び平成30年度の行動予定に加え、平成29年12月に実施した教育に関する市民アンケートの結果をふまえた次年度に向けての改善についてもふれています。なお、市民アンケートの結果については、その概要を別紙にまとめましたのでご覧ください。

本年度の教育委員会の点検評価の取り組みを、今後の教育行政の更なる充実につなげてまいります。

＜参考：みよし市の人口＞

	人口	世帯数	15歳未満人口	小中学校 児童生徒数
(計画策定年) 平成27年度	59,885	22,700	10,299	6,421
(点検評価年) 平成29年度	61,154	22,886	9,893	6,109
平成27年度比	102.1%	100.8%	96.1%	95.1%

2 教育振興基本計画の概要

(1) 基本理念

本市の現状や、国や県の動向から、これからのみよしの教育に最も必要とされているのは、真の「学び」が持つ楽しさにより、人と人がつながっていくことであると考え、次のような理念を計画の中心に据えました。

基本理念

学ぶ楽しさ、
人と人をつなぐ

体験や経験を伴う真の「学び」は、知的好奇心の充足感や、自己実現の喜びだけでなく、仲間と協働してものごとを成し遂げる充実感や、新たな人・こと・ものとの出会いを生み出します。これらの充実感や出会いは、生涯にわたって学び続ける原動力となり、さらには「学ぶ楽しさ」となって人と人をつないでいきます。昔からの住民と新しい住民が交じり合い、絶え間なく発展を続けている私たちのまちでは、人と人が固く結びつくことが必要とされています。

学ぶ楽しさを知った人は周りの人とつながり合い、生涯にわたり仲間と共に学び続ける人となります。

(2)計画の体系

本市では、基本理念に従い、次のような三本の柱を設定することで、目指す人間像に迫ります。一人一人の輝きが、みよしというまちの輝き、そして私たちの社会全体の輝きとなることを目指します。

I 次代を担う子どもをみんなで大切に育てる

「知・徳・体」のバランスのとれた子どもを、一人一人の個性を大切にしながら、家庭・地域・学校のみんなで大切に育てます。また、子育て世帯もしっかりと応援していきます。

II 生涯にわたって学び続ける市民を応援する

義務教育を終えた後も、生涯にわたって学び続ける市民を応援します。スポーツから文化・芸術に関するここまで、市民の生涯学習を幅広く支援し、人と人のつながりを生みだします。

III 「ふるさとみよし」を創る市民を育てる

みよしの良さを知り、未来のみよしを創る市民を育てるために、子どもの頃からみよしの良さを体験的に学べるようにしたり、学びを通じて人と人が出会うような場づくりをしたりします。

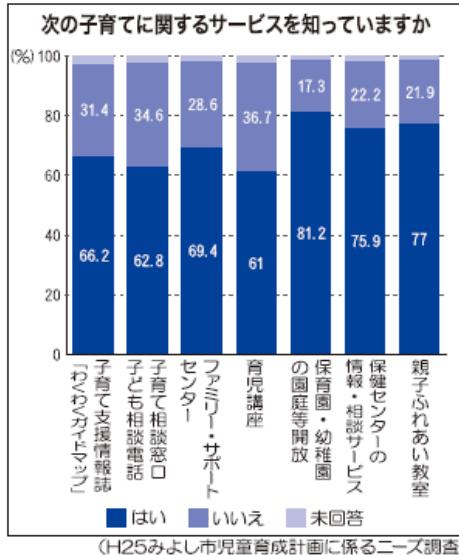
目指す人間像

生涯にわたって自らを磨き続け、
仲間と共に「ふるさとみよし」を築き、
より良い次代を創り出す人

3 各事業の実施状況報告

作戦①

子どもを持つ市民の子育ての不安を和らげます



現状と課題



本市でも、核家族化や地域とのつながりの希薄化は進んでおり、育児不安やストレスを抱える親の孤立を招く心配があります。一人で悩みを抱えないよう、気軽に相談のできる環境を整えるとともに、育児に関する情報が多くの方に届くように情報の発信の工夫する必要があります。

また、小さな子どもが安心して遊べる場所を作り、友達との関わりを通して社会性を学ぶ機会を増やすことも必要です。



重 点 施 策

(仮称) 子ども総合支援センターでの交流・相談活動の推進

[施策体系I-1-(1)ア P46]

【施策の概要】

子育ての拠点施設として、(仮称) 子ども総合支援センターを設置します。この施設には、
①子育てに関するさまざまな相談に対応し、必要に応じて専門家や関係機関への橋渡しを行う「総合相談窓口」
②市内の子育て支援事業や育児情報を集めた「情報コーナー」
③就園前の子どもが、親子で一緒に遊べるスペース「子育てふれあい広場」
などを設置し、主に就学前の子を持つ親に対し、子どもと一緒に気軽に利用し互いの交流を促すとともに、ニーズに応じた事業を企画するなど、子育てを総合的に支援していきます。

【進行計画】

新規	28	29	30	31	32
(仮称) 子ども総合支援センターでの子育て支援の充実	(仮称) 子ども総合支援センター改装工事	(仮称) 子ども総合支援センター開所	相談内容の傾向分析、ニーズの把握	ニーズに対応した事業の企画	事業の検証拡充

【成果指標】子育てに関する相談相手がいる人の割合

(子育てに係る意向調査)

現状 (H25)
92.8%

目標 (H32)
95%

※一人でも多くの市民が、子育てに不安を感じなくなるよう、子育てに関する相談相手がある人の割合を増やします

【達成状況】

重点施策		子育て総合支援センターでの交流・相談活動の推進
担当課		子育て支援課
H28	達成状況	<input type="checkbox"/> (仮称) 子ども総合支援センター整備工事を実施するとともに、備品、消耗品等の購入等、平成29年4月の開所に向けた準備を行った。 • 施設の開所に先立ち、みよし市子育て総合支援センター設置条例、管理規則を制定した。(12月)
H29	行動予定	<input type="checkbox"/> 子育て総合支援センターの開所 • 保育コンシェルジュを配置し、子育てに関する総合相談を実施する。 • 子育てふれあい広場で、ふれあい遊び・絵本の読み聞かせなど親子で年齢にあった遊びを行う場の提供及び情報交換の場の提供を行う。 • ファミリー・サポート・センター事業及び親子通園ルーム「ふたば」の事務局を設置する。
	達成状況	<input type="checkbox"/> 子育て総合支援センターの開所 • 総合相談窓口のほか広場等でも、保育コンシェルジュが来館者に声をかけて、不安や悩みがある場合に相談に応じた。 • 親子で参加する工作、わらべうた、手遊び等の行事を開催するとともに、毎日2回絵本の読み聞かせを行った。 • ファミリー・サポート・センターの入会説明会や講習会を交流室で開催した。
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<input type="checkbox"/> 平成29年4月の開所から来館者は約2,000人／月、相談件数は約5件／月となっている。さらに周知を行い、魅力的な施設として定着するように事業内容を検討していく。
H30	行動予定	<input type="checkbox"/> 平成30年4月から運用開始したみよし市子育て情報ナビ「みよびよ！」を活用し、市の子育て支援サービスを始め行事やイベント等の情報を積極的に発信する。 <input type="checkbox"/> ファミリー・サポート・センター事業のPRのため、交流会を子育て総合支援センター及び地区子育て支援センターで開催する。 <input type="checkbox"/> 児童育成計画に係るニーズ調査を実施する。
	達成状況	
H31	行動予定	<input type="checkbox"/> 利用者ニーズに応じた運営の見直しを行う。
	達成状況	
H32	目標	<input type="checkbox"/> 事業の検証・拡充を行う。
	達成状況	

【成果指標】子育てに関する相談相手がいる人の割合

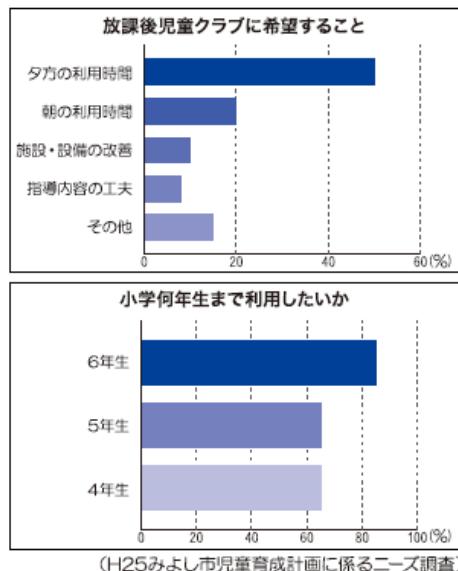
(子育てに係る意向調査)

基準年(H25)	H30 アンケート	目標(H32)
92.8%		95%

※平成30年度に「子育てに係る意向調査」を実施し、その中で成果を確認する予定です。

作戦②

働きながら子育てをする市民を応援します



現状と課題



現在、本市には、小学校4年生までを対象に公立の放課後児童クラブが設置されています。平成25年度に行ったアンケートでは、開所時間の延長や、小学校6年生までの対象拡大に対する要望が強いことが分かりました。

本市では、市民の要望に応えるために、夏休み期間のみ6年生までを対象とする試行運用を始めました。

今後は、通年で全ての小学生を対象とする放課後児童クラブを整備し、働きながら子育てをする市民を応援する必要があります。

重 点 施 策

放課後児童クラブによる子育て支援の拡充

[施策体系I-1-(2)ア P48]

【施策の概要】

共働き家庭の仕事と育児の両立を支援するために、放課後児童クラブの開所時間の延長を進めます。また、全ての放課後児童クラブで6年生までの受け入れを実現するため、各小学校に第2クラブが設置できるスペースの確保を進めます。児童数増が見込まれる天王小学校には、新しく放課後児童クラブ2室を新設します。

【進行計画】

新規 放課後児童クラ ブの利用拡大	28 開所時間の 延長実施	29 空き教室の放 課後児童クラブ への転用を検討	30 天王放課後 児童クラブ新設	31 全放課後児童 クラブで対象を 6年生まで拡大	32 →
-------------------------	---------------------	------------------------------------	------------------------	------------------------------------	---------

【成果指標】放課後児童クラブの利用児童数 (子育て支援課調べ)

現状 (H26)
376人

目標 (H32)
478人

※放課後児童クラブを利用した
いと考えている家庭が利用で
きるよう整備を進めます

【達成状況】

重点施策		放課後児童クラブによる子育て支援の拡充
担当課		子育て支援課
H28	達成状況	<input type="checkbox"/> 開所時間を、朝・晩それぞれ 30 分ずつ延長し、午前 7 時 30 分から午後 6 時 30 分までとした。 <input type="checkbox"/> 北部児童クラブ専用施設を建設し、9 月末に工事が完了、平成 28 年 10 月 10 日（月）に北部小校舎から移転し開所した。
H29	行動予定	<input type="checkbox"/> 天王児童クラブ専用施設の建設（2 教室） ・平成 30 年 2 月末開設予定 <input type="checkbox"/> 中部児童クラブ専用施設の設計（2 教室） ・平成 30 年度建設予定
	達成状況	<input type="checkbox"/> 天王児童クラブ建設工事が完了 ・平成 30 年 2 月 26 日から新施設の運用を開始 <input type="checkbox"/> 中部児童クラブ建設工事設計業務委託が完了 ・平成 30 年度建設予定 <input type="checkbox"/> 天王、三好丘、緑丘の第 2 教室の開所準備を実施（平成 30 年 4 月開所）
H30	市民アンケートの分析と H30 に向けた改善	<input type="checkbox"/> 平成 29 年度は、待機児童が 40 人に上り、昨年度の 31 名を大きく上回る状況となった。小学校の児童数は減少傾向にあるが、児童クラブの利用ニーズは高まっていることが伺える。
	行動予定	<input type="checkbox"/> H31 開所に向け、中部児童クラブの建設工事を実施する。 <input type="checkbox"/> 南部、三吉、黒笹児童クラブの第 2 教室の開設準備をする。 <input type="checkbox"/> 中部、南部、三吉、黒笹児童クラブの運営委託を行うため、運営事業者をプロポーザルにより決定する。 <input type="checkbox"/> 放課後児童支援員研修を受講させ、資格認定者の増員を図る。
H31	達成状況	
	行動予定	<input type="checkbox"/> 中部、南部、三吉、黒笹に第 2 教室を設置し、6 年生まで対象を拡大 <input type="checkbox"/> 中部、南部、三吉、黒笹の運営を民間に委託
H32	達成状況	
	目標	<input type="checkbox"/> 開所時間の延長 ・授業日（⇒放課後～午後 7 時） ・長期休業日等（⇒午前 7 時 30 分～午後 7 時）

【成果指標】放課後児童クラブの利用児童数

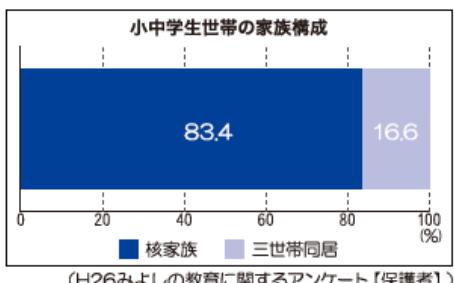
（子育て支援課調べ）

基準年（H26）	H28	H29	H30	H31	目標（H32）
376 人	384 人	399 人			478 人

※施設の利用定員は基準年から変更ありません。共働き家庭の増加等により、利用ニーズは高まっており、待機児童数が増加の傾向にあります。

作戦③

子育てに役立つ情報をたくさん発信します



小学校の6年生の娘がいます。スマートフォンを持たせるには家庭でルールづくりが必要と聞くけれど、どのようなルールをつくれば良いのか、よくわかりません。
(行政区ヒアリングより)

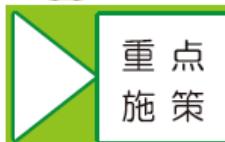


現状と課題



本市でも、三世代同居世帯は減少し、核家族の家庭が増加しています。親しい近親者から気軽に子育てのノウハウを得ることは、昔ほど簡単なことではありません。インターネット社会の中で、家庭教育に関する情報は氾濫していますが、あやふやなものも多く、住んでいる地域に合った正しい情報が市民から求められています。

また、市内各所で開かれる教育に有益な催しや行事も増加しており、簡単に情報を得られる仕組みづくりも必要とされています。



家庭の教育力向上のための啓発活動の推進

[施策体系I-1-(3)ア P48]

【施策の概要】

みよしの家庭教育に対する指針づくりを進めた後、「広報みよし」と共に、家庭教育だよりを発行します。また、小中学校や児童館、スポーツ施設などで行われるさまざまな教育関連の催しの情報を、教育力レンダーとして一覧配布することで、市民の幅広い参加を促します。

【進行計画】

新規	28	29	30	31	32
家庭教育だより・ 教育力レンダー の発行	みよし市家庭教育 推進指針の作成	市民に伝えたい 教育情報の整理・ 紙面構成検討	家庭教育だより の発行	教育行事予定集約 の仕組みづくり	教育力レンダー の発行

【成果指標】広報と共に配布する家庭教育だよりを読んでいる保護者の割合
(みよしの教育に関するアンケート【保護者】)

現状 (H26)

—

目標 (H32)

70%

※多くの市民に読んでもらえる
ような家庭教育だよりを発行
し、市民の教育力向上を図ります

【達成状況】

重点施策		家庭の教育力向上のための啓発活動の推進
担当課		教育行政課
H28	達成状況	<input type="checkbox"/> 本市の家庭教育の現状と課題の整理を行い、家庭教育だよりに掲載する内容の検討を進めた。
	行動予定	<input type="checkbox"/> 本市の子育てに関する情報や相談先などのうち、小中学生を持つ保護者を対象もしくは必要と思われる家庭教育や思春期などの分野に関する情報をまとめる。 <input type="checkbox"/> 家庭教育だよりに掲載する情報について検討するとともに、広報の他の発信方法についても具体的に検討する。 <input type="checkbox"/> 上記に合った発信媒体、発信間隔などを検討する。
H29	達成状況	<input type="checkbox"/> 本市の家庭教育の状況を把握し、家庭教育力の向上に必要とされている事項をリストアップした。 <input type="checkbox"/> 年度ごとに取組みの柱を設定し、毎号に特集記事を作成することを決定した。平成30年度は、年6回（2ヶ月に1回）「広報みよし」に掲載する。
	市民アンケート・点検評価の分析 H30に向けた改善	<input type="checkbox"/> 保護者のアンケートでは、46%が家庭教育について「充実していない」と感じ、39%が情報を「十分には得られていない」としていることより、情報提供の必要性は大きい。また、中学生の家庭での様子を見ると、家族との関わりや規則正しい生活、あいさつをする割合が低く、思春期の子どもとの接し方についての情報も必要だと思われる。
H30	行動予定	<input type="checkbox"/> 広報みよしの中で、市民の家庭教育力向上に繋がる情報「家庭教育だより」を掲載する。 • ページ名：はぐくみ（HUGしてはぐくむ おやこ育ち） • 発行予定：年6回
	達成状況	
H31	行動予定	<input type="checkbox"/> 教育カレンダー発行の検討
	達成状況	
H32	目標	<input type="checkbox"/> 教育カレンダー発行
	達成状況	

【成果指標】広報と共に配布する家庭教育だよりを読んでいる保護者の割合

（みよしの教育に関するアンケート【保護者】）

基準年(H26)	H29 アンケート	H31 アンケート	目標(H32)
—	—		70%

※平成30年度より家庭教育だよりを発行するので、平成31年度のアンケートで成果を確認していきます。

作戦④

子育てに困っている家庭をたくさんの方で支えます

児童相談所などの行政の諸機関や、医師などの専門家と連携が必要なケースもあります。

今後は、子どもを取り巻く人々がさらに連携していく必要があります。

(学校ヒアリングより)



担任として、不登校の子どもには家庭訪問を繰り返していますが、簡単には改善しません。学校とは違った角度から本人や保護者を応援する仕組みがあると良いのですが…。

(学校ヒアリングより)



現状と課題



子どもを取り巻く環境は複雑化しており、虐待やネグレクト(育児放棄)などの深刻な問題を抱える家庭も増加傾向にあります。また、不登校状態から抜け出すことの難しい子どももいます。

このような家庭に対して、各学校はチームを組んで対応していますが、問題の根は深いことが多い、解決までには多くの時間を要します。積極的に家庭に関わって助言をしたり、学校や専門的な機関と家庭とを結び付けたりしながら解決を図っていく人材が求められています。

重 点 施 策

困難さを抱える家庭に対する個別支援の充実

[施策体系I-1-(3)イ P49]

【施策の概要】

子育てに困っている家庭を支えるために、(仮称)みよし市教育センターを中心とした教育相談体制を強化します。学校や専門的な機関(行政・医療など)と家庭を結び付けたり、家庭教育支援員を配置したりします。家庭教育支援員とは、様々な課題を抱えている家庭の相談にのりながら専門機関による支援体制を確立したりする人材です。

【進行計画】

拡充 教育相談体制 の強化	28	29	30	31	32
	(仮称)みよし市教育センターを中心とした教育相談体制の強化	家庭教育支援に関わる職員の配置(1名)	(仮称)みよし市教育センター開所		家庭教育支援に関わる職員の配置(2名)

【成果指標】教育相談体制の充実 (学校教育課調べ)

現状(H26)

- ・発達に関する事 189件
- ・不登校に関する事 14件
- ・学校・家庭生活に関する事 14件

※長期の相談待ちなし

目標(H32)

- 速やかに相談ができる、
- 不安を軽減できるような相談体制の整備拡充

※専門相談員との定期相談ができたり、必要な諸機関・専門機関と連携ができたりする、より良い相談体制を整備・拡充します

【達成状況】

重点施策		困難さを抱える家庭に対する個別支援の充実
担当課		学校教育課
H28	達成状況	<p><input checked="" type="checkbox"/>ハートケア教育主任サポートーを計2名とし、事業の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向にある児童生徒や家庭の相談にのったり、家庭訪問をしたりすることで家庭教育を支援することができた。(随時) ・適応指導教室の児童生徒のために学習支援をした。(毎日) ・実態把握と児童生徒支援のために学校を訪問した。(週1回程度)
H29	行動予定	<p><input checked="" type="checkbox"/>教育センター「学びの森」の開所に伴う教育支援センター機能の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室の運営や相談活動、学校支援の充実 ・他課や医療機関等との連携を深めることにより、より良い相談体制を整備・拡充を図る。
	達成状況	<p><input checked="" type="checkbox"/>適応指導教室の支援体制や教育センター「学びの森」及び学校での心理相談員による相談活動の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室では、児童生徒の学習支援や自立支援をした。(毎日) ・市心理相談員及び専門相談員は、のべ735件の相談活動を実施した。 ・個別支援検討会議で支援方法を考えて対応するなど、関係機関と連携して児童生徒を支援することができた。(随時)
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<p><input checked="" type="checkbox"/>相談機関の一つとして、平成29年4月に教育センター「学びの森」を開設したが、学校以外に相談できる公的機関を知っている保護者は25%に留まっているため、保護者への周知を図る必要がある。</p>
H30	行動予定	<p><input checked="" type="checkbox"/>教育センター「学びの森」を中心とした教育相談体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育センター「学びの森」での相談活動について広報紙へ掲載したり、チラシを配布したりして、保護者への周知を図る。 ・保護者も加えて個別支援検討会議を開催するなど、関係機関、学校、保護者との連携をさらに深める。
	達成状況	
H31	行動予定	<p><input checked="" type="checkbox"/>家庭教育支援に関わる職員の配置(2名)</p>
	達成状況	
H32	目標	<p><input checked="" type="checkbox"/>速やかに相談ができ、不安を軽減できるような相談体制の整備拡充</p>
	達成状況	

【成果指標】教育相談体制の充実

(学校教育課調べ)

基準年(H26)	H28	H29	H30	H31	目標(H32)
<ul style="list-style-type: none"> ・発達相談 189件 ・不登校相談 14件 ・生活全般相談 14件 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達相談 174件 ・発達検査 20件 ・不登校相談 19件 ・生活全般相談 9件 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達・生活相談 375件 ・発達検査 48件 ・不登校相談 292件 			速やかに相談ができ、不安を軽減できるような相談体制の整備拡充

※常勤の心理士の配置により、相談件数が大幅に増えました。特に、不登校に関する相談が急増しました。

作戦⑤

自ら考える力のつく、楽しい授業を増やします



(H27「考えることを楽しみ、学び続ける個の育成」【緑丘小】)

(前略) そのために必要な力を子供たちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的に協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。

（平成26年11月20日中央教育審議会への諮問）

現状と課題



現在、本市では、話し合いやペア・グループ活動を取り入れた、学び合いを大切にした授業づくりが各小中学校で実践されています。このような主体的で協働的な学びのスタイルは、未来を生き抜く子どもに最も必要とされているものです。

こうした主体性や協働性を大切にした授業づくりや学校づくりを実現するためには、キャリアステージに応じた系統的な研修を、教職員が積み重ねていくことが必要です。教職員が資質を向上させ、楽しい授業づくりに力を発揮することが強く求められています。



重 点 施 策

主体的・協働的な学びを生み出すための、教職員の資質向上への取り組み

【施策体系 I-2-(1) ア P50】

【施策の概要】

（仮称）みよし市教育センターにおいて、キャリアステージに応じた教職員の資質、能力の向上を図る研修を進め、楽しい授業づくりを目指します。

- ・教職員一人一人のキャリアに応じた研修計画を立案します。
- ・研修を通して、「わかる授業」「できる授業」「楽しい授業」づくりを実現します。
- ・生徒指導、学級経営など授業づくり以外にも幅広い研修を行い、教職員の総合的な資質の向上を図ります。

【進行計画】

新規 みよし市教員 研修計画の作成	28	29	30	31	32
	新学習指導要領実施に向けた研修計画の見直しと作成	キャリアステージに応じた教職員の資質向上指針の作成	新学習指導要領に対応した評価基準の作成	→	研修状況の点検と見直し

【成果指標】「毎日の授業に満足している」児童生徒の割合

（みよしの教育に関するアンケート【小5・中2】）

現状 (H26)
小学生 80%
中学生 69%

目標 (H32)
小学生 85%
中学生 75%

※教職員が指導力を磨き、「わかる授業」「できる授業」「楽しい授業」を行うことで、子ども自身の日々の授業への満足度を向上させます

【達成状況】

重点施策		主体的・協働的な学びを生み出すための、教職員の資質向上への取り組み
担当課		学校教育課
H28	達成状況	<input type="checkbox"/> 新学習指導要領実施に向け取り組みを進めた。 ・学校訪問で、「わかる授業」「できる授業」について指導をした。(各校年1回) ・校内現職研修を中心に「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを進めた。 ・教職員のキャリアステージに応じた研修計画を立案した。
H29	行動予定	<input type="checkbox"/> 教師としての専門性の向上、豊かな人間性の向上を目指すスキルアップ研修に、新たに「自主応募研修」を設定する。教師が自主的に受けたいと思うような研修を実施し、教職員の資質向上をめざす。 <input type="checkbox"/> 市教職員研修実施体系に基づいた、キャリアステージに応じた教職員の資質向上指針の作成
	達成状況	<input type="checkbox"/> 10月に全校の校長を訪ね、今後の研修の在り方についてヒアリングを行ったところ、研修全体の見直しが必要であることが分かった。そこで、研修を充実させつつ、多忙化を招かない方法を模索し、新たな研修計画を作成した。 <input type="checkbox"/> キャリアステージに応じた教職員の資質向上指針については、県のものが示されたところなので、それを活用し、本市の研修全般の見直しを進めている。
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<input type="checkbox"/> アンケートからは、授業を中心とした学校生活に満足する度合いが子ども・保護者とも高まっているので、今後も学校教育の充実を目指す。 <input type="checkbox"/> アンケートで「研修が多い」と回答した教職員が23%から36%に増えた。多忙感を和らげ、精選を図りながら施策を推進する必要がある。
H30	行動予定	<input type="checkbox"/> 新学習指導要領実施に対応するため、特に次の点に関する資質向上を目指す。 ① 「特別の教科道徳」の授業づくり ② 本市のカリキュラムに沿った小学校外国語活動の展開 ③ プログラミング学習の試行 ④ 「深い学び」を実現する授業づくり <input type="checkbox"/> 平成29年度作成のキャリアステージに応じた「みよし市教職員研修実施体系」に基づいた各種研修の実施
	達成状況	
H31	行動予定	<input type="checkbox"/> 新学習指導要領に対応した評価規準の見直し
	達成状況	
H32	目標	<input type="checkbox"/> 研修状況の点検と見直し
	達成状況	

【成果指標】「毎日の授業に満足している」児童生徒の割合

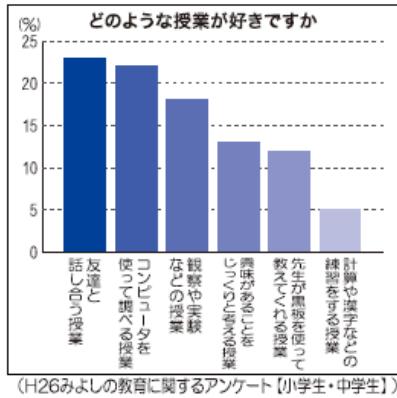
(みよしの教育に関するアンケート【小学生・中学生】)

基準年(H26)	H29 アンケート	H31 アンケート	目標(H32)
小学校80% 中学校69%	小学校79% 中学校71%		小学校85% 中学校75%

※中学生は全体としては2ポイントアップに留まるも、内容としては強い肯定群5ポイントアップなど成果が見られます。

作戦⑥

ICT環境を整備し、新たな学びを創造します



	国が示す整備目標 (H29)	みよし市の整備状況 (H26)
教育用PC	3.6人/1台	11.6人/1台
電子黒板	1台/1教室	0.35台/1教室

(H27学校教育課調べ)

現状と課題



本市では、コンピュータ教室や電子黒板、インターネット回線などのICT環境整備を進めてきました。各学校でも、それらを活用した学習の仕方を工夫して教育活動を行っています。そのため、コンピュータを活用した授業は、子どもたちの関心も大変高いです。

国は、21世紀を担う子どもには、情報社会に主体的に対応する能力を身に付けさせることを教育改革の柱の一つにあげています。教育用コンピュータや電子黒板を、国が示す整備目標の水準に近づけ、それらを活用した探究的・協働的な質の高い学習を進めることが急務とされています。



ICT教育の推進

[施策体系I-2-(2)ア P51]

【施策の概要】

本市では、コンピュータや情報通信ネットワークなどを授業に有効に活用した子どもの思考力・判断力・表現力を育むための授業改善や、情報モラル教育のあり方についての調査研究・実践を積極的に推進します。また、そのために必要となるICT機器に関する環境整備をさらに進めます。

【進行計画】

新規	28	29	30	31	32
ICTを活用した授業づくりへの環境整備	ICTを活用した授業や情報モラル教育についての調査・研究	ICT教育に関する研究委嘱小中各1校	ICT教育に関する推進計画の策定	推進計画に従つたICT環境整備の開始	→

【成果指標】教育用コンピュータ1台あたりの児童生徒数

(学校教育課調べ)

現状 (H26)
11.6人



目標 (H32)
4人

※グループに1台の移動式PCを導入した授業の実現を目指します

【達成状況】

重点施策		ICT教育の推進
担当課		学校教育課
H28	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> □文部科学省事業を活用してICTアドバイザーを招聘し、ICT教育推進に係る具体的なアドバイスを得た。(10月・12月・1月) □タブレット端末を利用した授業研修会を行った。(8月、12月) □学校教育情報化推進委員会を開催し、今後のICT整備の方向性と、教職員のICTセキュリティ強化についても協議した。(12月)
H29	行動予定	<ul style="list-style-type: none"> □タブレット端末を小中1校に10台ずつ配備し、授業実践を行う。 ・実践校は、3月までにタブレット端末を用いた授業実践を行い、タブレット端末の使用例を発表する。 ・実践校は、活用事例及びその成果と課題を報告する。
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> □タブレット端末を用いた公開授業を年間5回実施(10月・11月・12月・1月・2月) ・タブレットの効果や課題、改善点を記した授業参観シートの集約 □プログラミング教育に関する研修会の実施(8月) □学校教育情報化推進委員会を開催し、ICT環境整備計画の方向性と情報セキュリティ実施手順について協議した。(12月) □実践校によるタブレットの活用事例及びその成果と課題の報告(3月)
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<ul style="list-style-type: none"> □アンケートからは「コンピュータを使って調べる授業が好き」と回答している児童生徒の割合が高いことから、児童生徒が意欲を示すICTを活用した授業を取り入れることができるよう整備計画を策定していく必要がある。 □教職員のアンケートからは、「普通教室での電子黒板やプロジェクターの整備」の充実を求めている割合が高いことが分かる。授業での活用率が上がるICT機器の選定を進めていく必要がある。
H30	行動予定	<ul style="list-style-type: none"> □学校ICT環境整備推進計画の策定及び策定会議の実施 ・学校教育情報化推進会議を策定会議と位置づけ、本市がめざすICTを活用した授業スタイルの確立やICT機器の選定について協議する。 □小学校プログラミング教育の推進 ・プログラミング教育に関する教員研修の講師を各校に派遣 ・近隣大学の学生をメンターとした出前授業を展開
	達成状況	
H31	行動予定	□平成32年の目標達成に向け、策定した推進計画に従ってICT環境を整備
	達成状況	
H32	目標	□市内全小中学校にタブレット端末を40台ずつ配置
	達成状況	

【成果指標】①教育用コンピュータ1台あたりの児童生徒数

②1教室あたりの大型提示装置の設置台数* (学校教育課調べ)

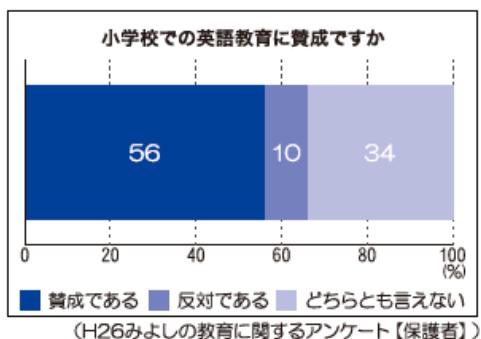
基準年(H26)	H28	H29	H30	H31	目標(H32)
①11.6人 ②0.35台	①9.8人 ②0.38台	①10.4人 ②0.42台			①4人 ②1台

* 国が新たに示したICT整備指針やタブレット実証校の検証結果から、普通教室への大型提示装置設置の必要性が高いことが明らかとなつたため、基準年にさかのぼって成果指標②を加えました。

※現在は古い電子黒板も含む数値となっています。今後は推進計画を策定し、整備を進める予定です。

作戦⑦

生きた英語に触れる外国語学習を充実させます



ネイティブの教師を増やす、会話力をつけるための授業をするなど、「生きた英語」のための教育に力を入れてほしいです。
(行政区ヒアリングより)

現状と課題



現在、小学校高学年では、ALT(外国語指導助手)が担任と協力して12時間(年間35時間中)の外国語活動の授業を、中学校では15時間(年間140時間中)の英語の授業を行っています。また、外国語活動対応非常勤講師も、小学校で年間16時間の授業を行っています。

今後は、小学校高学年から外国語の授業が教科化されるなど、グローバル化に対応した教育が展開されていくため、生きた英語による外国語活動の充実が求められています。



ALT・外国語活動対応非常勤講師による外国語指導の充実

[施策体系I-2-(2)イ P51]

【施策の概要】

小学校では、全ての授業でALT又は、外国語活動対応非常勤講師が学級担任と共に外国語活動の授業を行い、言語や文化について体験的に理解を図りコミュニケーション能力の基礎を養うことを目指します。中学校ではさらに、身近な話題について理解、表現、情報交換ができるコミュニケーション能力を養います。

【進行計画】

拡充	28	29	30	31	32
小中学校へのALT・外国語活動対応非常勤講師の配置促進	ALT・非常勤講師を活用した授業づくりに関する研究推進	ALT・非常勤講師が参加する小学校高学年の授業100%	ALT・非常勤講師が参加する小学校中学年の授業100%	ALTが参加する中学校の授業20%	ALTが参加する中学校の授業25%

【成果指標】ALT及び外国語活動対応非常勤講師が参加する外国語の授業の割合
(学校教育課調べ)

現状(H26)
小学生 80%
中学生 11%



目標(H32)
小学生 100%
中学生 25%

※小学校では全ての授業で、中学校では週に1度の授業で生きた英語に触れる外国語の授業実施を目指します

【達成状況】

重点施策		ALT・外国語活動対応非常勤講師による外国語指導の充実
担当課		学校教育課
H28	達成状況	<input type="checkbox"/> ALT・非常勤講師が参加する小学校高学年の授業80%実施 <input type="checkbox"/> 中学校でのALTが参加する授業を全学級年間15時間実施した。 <input type="checkbox"/> 英語教育推進リーダーを講師に、外国語活動研修会の実施。(8月)。
H29	行動予定	<input type="checkbox"/> 英語教育推進リーダーによる外国語活動研修会を年間2回実施 <input type="checkbox"/> ALTを活用した教員対象の研修の実施 ・ ALTを講師として招聘し、市内小学校教員を対象の研修を実施する。 <input type="checkbox"/> 小学校高学年の教科化に向けて、教育課程の検討および評価方法について検討会議を設ける。
	達成状況	<input type="checkbox"/> 英語教育推進リーダーによる伝達講習、及びALTによる実技研修。(8月) <input type="checkbox"/> 英語教育推進リーダーによる師範授業公開、及び授業研究会。(2月) <input type="checkbox"/> 平成30年度からの外国語活動の授業時数について全小学校で統一。(1月) <input type="checkbox"/> ALT・非常勤講師が参加する小学校高学年の授業100%実施 <input type="checkbox"/> 中学校でのALTが参加する授業を全学級年間23時間実施した。
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<input type="checkbox"/> 新学習指導要領に準拠した授業について、小学校と中学校で模範授業を実施し、市内教職員が参観して研修する。 <input type="checkbox"/> 新学習指導要領の先行実施に向けて、学習内容と評価方法について検討する。
H30	行動予定	<input type="checkbox"/> 英語教育推進リーダーによる授業公開・研究会(年2回)、ALTによる研修 <input type="checkbox"/> 小学校新学習指導要領の時間数での実施に向けて、コマ数の確保について教育課程検討会議にて検討 <input type="checkbox"/> ALT・非常勤講師が参加する小学3年から6年までの授業100%実施 <input type="checkbox"/> 中学校でのALTが参加する授業を全学級年間23時間実施
	達成状況	
H31	行動予定	<input type="checkbox"/> 小学校において、ALTまたは非常勤講師が学級担任と共にを行う授業を100%実施
	達成状況	
H32	目標	<input type="checkbox"/> 中学校において、ALTが英語科教員と共にを行う授業を25%実施
	達成状況	

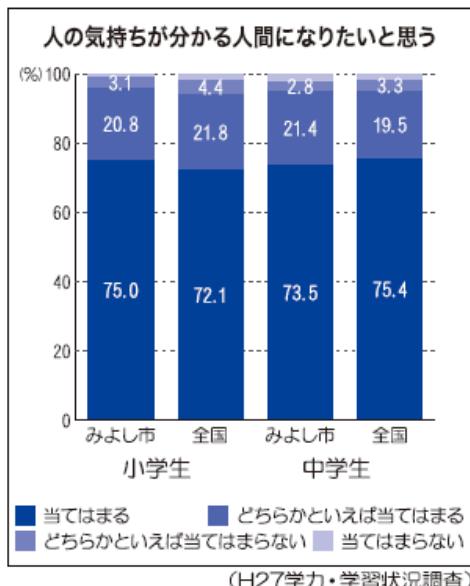
【成果指標】 ALT及び外国語活動対応非常勤講師が参加する外国語の授業の割合 (学校教育課調べ)

基準年(H26)	H28	H29	H30	H31	目標(H32)
小 80% 中 11%	小 80% 中 11%	小 100% 中 15%			小 100% 中 25%

※ALT・非常勤講師が参加する小学校高学年の授業を100%実施できました。次年度は、移行措置により授業時数増となります
が、100%の実施を維持していきます。

作戦⑧

子どもの心を育てる教育を大切にします



現状と課題



市内の小中学校では、以前より道徳の研究に力を入れてきました。平成30年には、全国で道徳は「特別の教科道徳」となり、教科化がスタートします。

平成27年度に、子どもに「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」と尋ねたところ、9割を超える子どもが、「なりたい」と回答しました。今後も、道徳の授業などを最大限に活用し、家庭や地域とも連携を図りながら、子どもに思いやりの心を育て、互いの気持ちを想像することのできるあたたかいまちづくりを進めることができます。



重 点
施 策

道徳教育の研究推進

[施策体系I-3-(1)ア P52]

【施策の概要】

「特別の教科 道徳」を中心に、子どもの心を育てる教育を推進するために、みよし市道徳教育推進プランを策定し、家庭・地域と連携しながら、学校教育全体で発達段階に応じた道徳教育を推進します。また、新しく策定される教科書を活用した効果的な指導法や、子ども自身の振り返りに役立つような評価についても研究を進めます。

【進行計画】

新規 みよし市道徳 教育推進プラン の作成	28	29	30	31	32
	人権教育推進地域事業の実施 道徳教育研究校 による成果発表	教科書を活用した指導法 や、評価に関する研究推進	→	小中学校での 教科化実施	実施状況の 確認・改善

【成果指標】「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」児童生徒の割合
(全国学力・学習状況調査【小6・中3】)

現状 (H27)
小学生 75.0%
中学生 73.5%

目標 (H32)
小学生 85.0%
中学生 85.0%

※教育活動全体を通して子どもの心を育てる教育を推進し、他者を理解しようとする心をより一層育てます

【達成状況】

重点施策		道徳教育の研究推進
担当課		学校教育課
H28	達成状況	<input type="checkbox"/> 南中学校が2年間の研究の成果を発表し、市内外に広く道徳教育の進め方を提案した。(10月) <input type="checkbox"/> 三好丘中学校区の3小中(三好丘中・三好丘小・黒笹小)が連携して人権教育事業に取り組み、児童生徒・教職員の人権意識を高めた。
H29	行動予定	<input type="checkbox"/> 市主催による道徳教育推進教師研修会を実施し、「特別の教科 道徳」の教科化に向けて力量向上を図る。 <input type="checkbox"/> 教科化に向けた検討会議を立ち上げ、評価方法等の検討を行う。 <input type="checkbox"/> 児童生徒・教職員の人権意識を高めるため、三好丘中学校区の3小中学校(三好丘中・三好丘小・黒笹小)が連携して人権教育事業に取り組む。
	達成状況	<input type="checkbox"/> 道徳教育推進教師研修会を実施(10月) <input type="checkbox"/> 教科化に向けた検討会議を3回実施(8月、10月、12月) <input type="checkbox"/> 市主催による新年教育研究大会で道徳に関する講演会を実施(1月) <input type="checkbox"/> 三好丘中学校区の3小中学校が連携して人権教育事業に取り組んだ。 <input type="checkbox"/> 三吉小学校が道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業を実施し、道徳の授業づくりや評価の在り方について力量向上に取り組んだ。
H30	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<input type="checkbox"/> 「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実をさらに進める。 <input type="checkbox"/> 各校の実践や評価方法についての情報交換を密にする。
	行動予定	<input type="checkbox"/> 「特別の教科道徳」の実施に伴う年間指導計画の見直しと、指導方法や評価方法の在り方について協議する。 <input type="checkbox"/> 大学講師等を招いた研修会の予定を市内で共有し、参加を呼びかける。 <input type="checkbox"/> 三好丘中学校区人権教育推進地域事業を実施し、3年間の取組と成果の発表を新年教育研究大会で発表する。(3年次)
H31	達成状況	
	行動予定	<input type="checkbox"/> 市道徳教育推進プランの作成
H32	達成状況	
	目標	<input type="checkbox"/> 市道徳教育推進プランの検討・改善

【成果指標】「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合

(全国学力・学習状況調査)

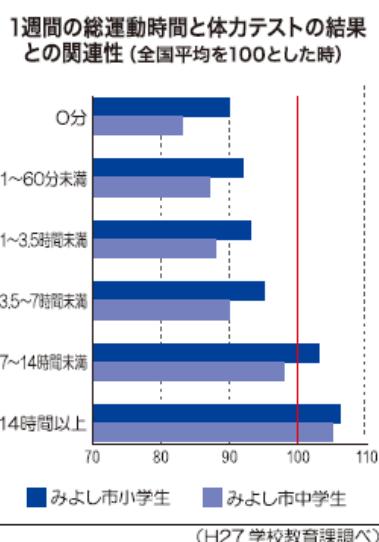
基準年(H27)	H28	H29	H30	H31	目標(H32)
小97.3% 中90.0%	小96.7% 中90.9%	小96.6% 中93.5%			小98.0% 中95.0%

* 国の全国・学力学習状況調査の質問項目に変更があったため、基準年にさかのぼって成果指標を改めました。

*中学生には伸びが見られるが、小学生の内訳を見ると「強く思う」が減っています。子どもの心に届く指導・支援のあり方について研修・実践を重ねていきます。

作戦⑨

たくましく健康な子どもを市全体で育てます



現状と課題



市内の中学校では、体育の授業とは別に、運動会や体育祭などの学校行事を通して運動に親しめるようにしたり、子どもが企画するスポーツ大会や休み時間の外遊びを推奨したりして、運動する機会を積極的につくるようにしています。

左のグラフからも分かる通り、1週間の総運動時間が長くなると、体力が高くなる傾向があります。これからのみよしを支える子どもが、生涯にわたり健康でたくましく生きていくために、義務教育段階で運動の必要性や楽しさを伝え、仲間と共に積極的に運動に関われるようになります。



重 点 施 策

みよし市体力向上計画の推進

[施策体系I-4-(1)ア P54]

【施策の概要】

みよし市体力向上計画を作成し、子どもが生涯にわたって運動に親しむ素地づくりに努めます。この計画では、独自の体力向上カードを作成して子どもが自ら運動する環境づくりを進めたり、カリキュラムの研究を行い、発達段階に応じた体づくり運動プログラムを作成したりします。

【進行計画】

新規 みよし市体力 向上計画の推進	28	29	30	31	32
	市体力向上計画の推進				
	体力向上カード の作成	体力向上カード の見直し	体づくり運動 プログラムの作成	体づくり運動 プログラムの見直し	→

【成果指標】全国体力・運動能力調査の体力テストの合計点（全国との比較） (全国体力・運動能力調査)

現状 (H26)
小学生: 男子53.1 (全国比△0.8)
: 女子54.5 (全国比△0.5)
中学生: 男子41.0 (全国比△0.7)
: 女子48.1 (全国比△0.6)

目標 (H32)
小学生 全国の合計を男女とも上回る
中学生 全国の合計を男女とも上回る

※実践的な体力
向上に取り組む
ことで、総運動
時間を確保し、
子どもの体力向
上を目指します

【達成状況】

重点施策		みよし市体力向上計画の推進
担当課		学校教育課
H28	達成状況	<p><input type="checkbox"/>体力テストの結果を分析したり、各校から体育や体力向上のためのカードを収集したりした。(10月、12月)</p> <p><input type="checkbox"/>市内の児童生徒や学校での取組の現状を把握し、体つくり運動の領域に絞って体力向上カードを作成した。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの体力向上課題対策プロジェクト検討委員による研修の実施。</p>
H29	行動予定	<p><input type="checkbox"/>体力向上カードや各運動のウォーミングアップドリル集を作成する。</p> <p><input type="checkbox"/>夏季休業中に、体育実技指導者講習会を開催し、授業力向上を図る。</p> <p><input type="checkbox"/>体力向上カードやウォーミングアップドリル集を各学校へ配付する。</p>
	達成状況	<p><input type="checkbox"/>各校から、体育科の各領域の学習カードをデータで収集した。現在、学習カードのデータファイルやウォーミングアップドリル案を作成中である。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの体力向上プロジェクト検討委員が作成した「体力向上プロジェクト」を市内小中学校へ配付し、活用を促した。体育の授業で活用された。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの体力向上のための「小4プロジェクト」講習会に、市内小中学校の教員41名が参加し、「走力」を高めるためのアクティビティを学んだ。</p>
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<p><input type="checkbox"/>小学校において、授業以外に運動やスポーツをする機会が減っている。休み時間中に外へ出て遊びたくなるような手立てが必要である。</p> <p><input type="checkbox"/>中学校でも運動する機会が減っているが、適度な休息も必要である。全員が運動する保健体育科の授業を充実させる必要がある。</p>
H30	行動予定	<p><input type="checkbox"/>平成29年度に各学校へ配付した「ウォーミングアップドリルや運動遊び集」の見直し及び充実を図り、授業での活用を促す。</p> <p><input type="checkbox"/>「みよしつ子スポーツチャレンジ(仮)」を市のHPに掲載し、市内の学級対抗で大縄跳びの記録等を競い合えるようにする。</p>
	達成状況	
H31	行動予定	<input type="checkbox"/> 体力向上プロジェクトの見直し
	達成状況	
H32	目標	<input type="checkbox"/> 体力向上プロジェクトの見直し
	達成状況	

【成果指標】全国体力・運動能力調査の体力テストの合計点（全国との比較）

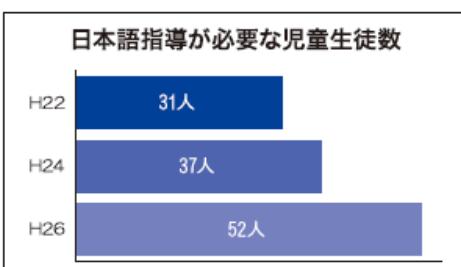
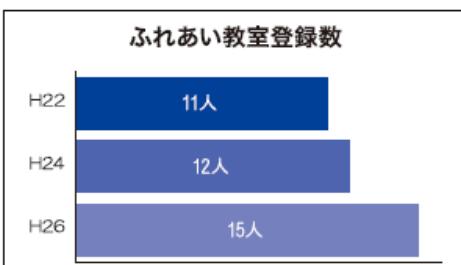
(全国体力・運動能力調査)

基準年(H26)	H28	H29	H30	H31	目標(H32)
小男：全国比△0.8	小男：全国比+1.1	小男：全国比△0.5			
小女：全国比△0.5	小女：全国比+0.6	小女：全国比△0.3			
中男：全国比△0.7	中男：全国比△0.9	中男：全国比△2.7			
中女：全国比△0.6	中女：全国比△2.7	中女：全国比△1.8			小中・男女とも全国を上回る

※小学生は男女ともに県平均は上回っているものの、全国平均は下回る。中学生は男女ともに、県平均も下回っており対策の必要があります。

作戦⑩

個別の支援が必要な子どもを応援します



(H27学校教育課調べ)

現状と課題



現在、みよし市教育支援センターでは、支援が必要な子どもとその家庭に対して、専門相談員による「教育相談」や、不登校児童生徒を対象とした「ふれあい教室」の開設などの支援を行っています。その対象となる子どもの数は、年々増えています。また、日本語指導が必要な子どもも、増加傾向にあります。

このような個別の支援を必要としている子どもや家庭のニーズを把握し、一人一人に応じたきめ細やかな支援を行うための体制づくりが求められています。



個別支援を要する子どもへのサポート体制の充実

[施策体系I-5-(1)ア P56]

【施策の概要】

現在の教育相談・適応指導教室(ふれあい教室)・日本語初期指導教室を(仮称)みよし市教育センターで引き続き実施し、一人一人をきめ細やかに支援します。また、障がいのある子どもに作成している個別の指導計画を、日本語指導が必要な子どもや不登校傾向の子どもにも広げることで、学校の体制づくりや教員の資質向上を図り、学校やセンターでの支援が適切に行えるようにします。

【進行計画】

拡充 各種「個別の指導計画」の作成 支援	28 支援体制及び各種 「個別の指導計画」 の様式の検討	29 (仮称)みよし市 教育センター開所	30 <個別支援のための機能> ・教育相談・ふれあい教室・日本語初期指導教室	31 各種「個別の指導 計画」の策定	32 各種「個別の指導計画」に よる支援及び案の見直し → 対象児童生徒の各種「個別 の指導計画」の作成・実施
----------------------------	---------------------------------------	----------------------------	----------------------------------------------	--------------------------	------------------------------------------------------------------------

【成果指標】個別の指導計画の作成割合 (市教育支援センターによる調査)

現状 (H26)
日本語指導が必要な児童生徒用:—
不登校傾向の児童生徒用:—



目標 (H32)
日本語指導が必要な児童生徒用:80%
不登校傾向の児童生徒用:80%

※保護者と共に個別の
指導計画を作成する
ことで、「その子」に
合った教育が継続的
に行える体制づくり
をします

【達成状況】

重点施策		個別支援を要する子どもへのサポート体制の充実
担当課		学校教育課
H28	達成状況	<p><input type="checkbox"/>日本語指導が必要な子どもや不登校傾向の子どもの支援体制を整え、個別の指導計画の様式を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの在籍校の担当者が初期指導教室の利用状況を参観したり、指導者との情報交換を行ったりして、指導や情報の共有を図った。 不登校の未然防止・初期対応を図るため、ハートケア主任サポーターが必要に応じ学校や家庭に巡回指導を行った。
H29	行動予定	<p><input type="checkbox"/>日本語指導が必要な子どもの個別の支援・指導計画の様式を検討し、支援体制を整える。</p> <p><input type="checkbox"/>いじめ・不登校対策委員会との連携およびケース検討会議を実施し、指導・支援計画を作成する。</p>
	達成状況	<p><input type="checkbox"/>いじめ・不登校対策委員会を二度実施し、各機関との連携体制について協議した。</p> <p><input type="checkbox"/>必要に応じてケース検討会議を実施し、不登校傾向の児童生徒に対し切れ目のない支援を行うために、指導・支援計画を作成した。</p> <p><input type="checkbox"/>日本語指導が必要な子どもの個別の支援・指導計画の様式を作成し、各校で該当児童生徒の個別の支援・指導計画の作成を進めた。</p>
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<input type="checkbox"/> ケース検討会議で対象となった児童生徒の継続的な見守りと、支援体制や個別の支援・指導計画の見直しを行う。
H30	行動予定	<p><input type="checkbox"/>各種「個別の支援・指導計画」による支援及び案の見直し</p> <p><input type="checkbox"/>中学校から高等学校への「個別の支援・指導計画」の引継ぎの推進</p> <p><input type="checkbox"/>不登校児童生徒のための児童生徒理解・教育支援シートを作成し、支援の充実を図る。</p>
	達成状況	
H31	行動予定	<input type="checkbox"/> 対象児童生徒の各種「個別の教育支援・指導計画」の継続的な見直し
	達成状況	
H32	目標	<input type="checkbox"/> 対象児童生徒の各種「個別の教育支援・指導計画」の継続的な見直し
	達成状況	

【成果指標】個別の指導計画の作成割合

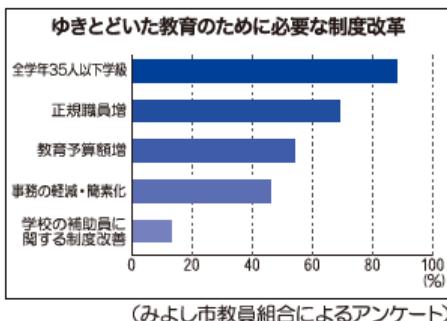
(市教育支援センターによる調査)

基準年(H26)	H29 調査	H31 調査	目標(H32)
日本語指導が必要な児童生徒用：— 不登校傾向の児童生徒用：—	日本語指導が必要な児童生徒用：100% 不登校傾向の児童生徒用：100%		日本語指導が必要な児童生徒用：80% 不登校傾向の児童生徒用：80%

※障がいのある子ども、日本語指導を必要とする子ども、不登校傾向の子ども、それぞれに対する個別の指導計画作成が進みました。

作戦⑪

一人一人が良さを發揮できる学校づくりをします



少人数学級になって、毎日の生活日記に丁寧に目を通してくれるようになりました。全学年での早期実現を強く望んでいます。
(行政区ヒアリングより)



現状と課題



国や県は、小学校1・2年生と中学校1年生において少人数学級、いわゆる35人学級を実施しています。本市では、義務教育全てでの少人数学級実現を目指し、小学校1・2年生と中学校1年生に加え、平成23年度より小学校3年生の追加実施を始めました。

学級規模が小さくなると、担任の先生は、より一人一人に目が届くようになり、学習面だけでなく生活面でもきめ細かい指導が可能となります。

保護者の少人数学級実現への要望も、年々大きくなっています。

重点施策

小中学校少人数学級体制の拡大

[施策体系I-5-(1)イ P56]

【施策の概要】

小学校1年生から中学校3年生までの、全ての学年での少人数学級体制の早期実現を目指します。まずは、平成32年までに、現行の小学校1年生から3年生まで、中学校1年生に加え、小学校4年生と中学校2年生に少人数学級を設置します。

また、少人数学級を活用したより効果的な指導について研究し、実践します。

【進行計画】

拡充 全学年での 少人数学級体制 の実現	28	29	30	31	32
	少人数指導を活用した指導方法についての研究・実践				
	中2追加実施	→	→	小4追加実施	更なる拡大に むけた検討

【成果指標】35人以下学級を実施している学年 (学校教育課による調査)

現状 (H26)
小学生 1・2・3年
中学生 1年



目標 (H32)
小学生 1・2・3・4年
中学生 1・2年

※35人学級体制の学年を拡大すると共に、少人数でのより効果的な指導について研究・実践します

【達成状況】

重点施策		小中学校少人数学級体制の拡大
担当課		学校教育課
H28	達成状況	<p>□中学校2年生での35入学級を実現させたことで、三好丘中学校が、38入学級×6クラス⇒32（33）入学級×7クラスになった。</p> <p>・学級規模が小さくなつたことで、担任の先生は一人一人に目が届き、きめの細かい指導が可能になった。</p>
H29	行動予定	<p>□35入学級を中学校3年生にまで拡大し、中学校3年間を通して35入学級を実現する。</p> <p>□少人数指導を活用した指導方法についての研究・実践を継続し、少人数指導のメリットについて具体的にまとめる。</p>
H29	達成状況	<p>□中3での35入学級を実現させたことで、三好丘中学校の3年生が、38・39入学級×6クラス⇒33入学級×7クラスになった。</p> <p>・学級規模が小さくなつたことで、担任の先生は一人一人に目が届き、きめの細かい指導が可能になった。</p> <p>□新しい学習指導要領のキーワードとなる「主体的・対話的で、深い学び」の実現を目指し、少人数の良さを生かしながら実践を重ねている。</p>
H30	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<p>□アンケートで教職員が望む専門的な支援の項目を見ると、「発達の問題」「不登校・引きこもり」「外国人」「ネグレクト・虐待」など、個に応じた対応に困り感があることが分かる。今後も学級規模を小さくし、日ごろから個に応じた指導が行われるようにする必要がある。</p>
H30	行動予定	<p>□小学4、5、6年生の35入学級実現に向けて、必要となる人員、教室、備品等の教育環境整備を進める。</p> <p>□少人数指導を活用した指導方法についての研究・実践を継続し、少人数指導のメリットについて具体的にまとめる。</p>
H30	達成状況	
H31	行動予定	□35入学級を小学校4、5、6年生までに拡大
H31	達成状況	
H32	目標	□少人数指導のメリットを具体的にまとめ、効果的な指導に生かす。
H32	達成状況	

【成果指標】35人以下学級を実施している学年

(学校教育課による調査)

基準年(H26)	H28	H29	H30	H31	目標(H32)
小1 2 3年 中1年	小1 2 3年 中1 2年	小1 2 3年 中1 2 3年			小1 2 3 4年 中1 2年

※中学生の35人以下学級の実現を前倒しで実現することができ、より個を大切にした教育活動を行うことができました。

作戦⑫

安心・安全・快適な学校環境づくりを進めます



市内各校の校舎の建設・改修の状況

中部	小	昭和62年建設
北部	小	平成14～17年改修
南部	小	平成元年改修
天王	小	平成25～27年改修
三吉	小	昭和55年建設
三好丘	小	平成元年建設
緑丘	小	平成8年建設
黒笹	小	平成19年建設
三好	中	平成20～24年改修
北	中	昭和56年建設
南	中	昭和58年建設
三好丘	中	平成18年建設

現状と課題



みよし市の中学校の建物は、全て耐震化の対策が済んでおり、万が一、大きな地震が起こっても対応できるようになっています。

しかし、学校によっては築後30～40年の校舎もあるため、床の傷みや設備の老朽化などの課題があります。

そこで、みよし市では、平成14年度の北部小学校をスタートに、順次校舎の改修を進めています。子どもが、安心・安全で快適な学校でのびのびと生活ができるよう、学校施設の改修が求められています。



重 点 施 策

大規模改修による学校施設の整備

[施策体系I-6-(2)ア P60]

【施策の概要】

老朽化した小中学校の校舎の大規模改修や、体育館照明のLED化を順次進めています。時代に合った設備に刷新すると共に、バリアフリー化や省エネルギー化も進めます。また、内装材には木製品を多く使うようにするなど、子どもが温もりを感じられる学校環境の整備を推進していきます。

【進行計画】

拡充 小中学校の施設 の計画的な改修	28	29	30	31	32
	・北中学校大規模改修		→	・三吉小学校大規模改修	→
	・体育館照明LED化 (5校完了)				→

【成果指標】「学校施設が安心・安全・快適である」児童生徒の割合
(みよしの教育に関するアンケート【小5・中2】)

現状 (H26)
小学生 84%
中学生 70%



目標 (H32)
小学生 87%
中学生 75%

※子どもが安心・安全・快適な
学校環境だと感じられるよう、
きめ細かな改修とともに、大
規模改修を推し進めます

【達成状況】

重点施策		大規模改修による学校施設の整備
担当課		教育行政課
H28	達成状況	<p>□夏季休業期間を中心に6月から1月末までかけて南舎（管理棟）・武道場の大規模改修を実施し、老朽化した施設の長寿命化とトイレのドライ化、洋式化を進めることができた。</p> <p>□学校現場の要望も踏まえ、平成29年度に実施する2期工事（北舎：普通教室棟・技術課室棟・体育館）の設計を行うことができた。</p>
H29	行動予定	<p>□北中学校大規模改修2期工事（北舎：普通教室棟・技術科室棟・体育館）の実施</p> <p>□北中学校大規模改修3期工事実施設計（プール・外構）の業務委託の実施</p>
H29	達成状況	<p>□北中学校大規模改修2期工事（北舎：普通教室棟・技術科室棟・体育館）の契約を5月に交わし、1月末までに工事を実施した。</p> <p>□北中学校大規模改修3期工事実施設計（プール・外構）の業務委託の契約を5月に交わし、1月末までに設計を行った。</p>
H30	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<p>□北中学校の大規模改修により老朽化の改善だけでなく、トイレのドライ化、洋式化を行った。その結果がアンケートの満足度にも反映されていると思われる。</p> <p>□引き続き、他の学校においても計画的大規模改修を行っていく。</p>
H30	行動予定	<p>□北中学校大規模改修3期工事（プール・外構）の実施</p> <p>□三吉小学校大規模改修1期工事実施設計（体育館・プール・外構）の実施</p>
H31	達成状況	
H31	行動予定	<p>□三吉小学校大規模改修1期工事（体育館・プール・外構）の実施</p> <p>□三吉小学校大規模改修2期工事実施設計（南舎：管理棟）の実施</p>
H32	達成状況	
H32	目標	<p>□三吉小学校大規模改修2期工事（南舎：管理棟）の実施</p> <p>□三吉小学校大規模改修3期工事実施設計（北舎：普通教室棟）の実施</p>
H32	達成状況	

【成果指標】「学校施設が安心・安全・快適である」児童生徒の割合

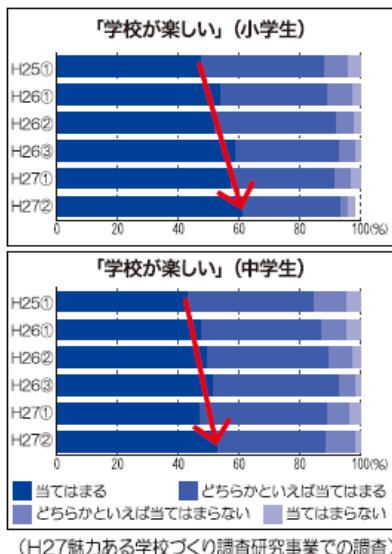
（みよしの教育に関するアンケート【小学生・中学生】）

基準年(H26)	H29 アンケート	H31 アンケート	目標(H32)
小学生84% 中学生70%	小学生84% 中学生81%		小学生87% 中学生75%

※北中学校の大規模改修が進んだことで、中学生の満足度が大幅にアップしました。小学生の「大変満足」の割合も増えました。

作戦⑬

12校が「チームみよし」となりパワーアップします



現状と課題



みよし市では平成26・27年度に、文部科学省から委嘱を受け、「魅力ある学校づくり調査研究事業」に取り組みました。これは、中学校区内の全小中学校が連携を密にし、地域全体で笑顔あふれる学校づくりをしていこうとする取り組みです。

この取り組みの結果、学校間が連携をして指導にあたることで、教職員の力量向上や楽しい学校づくり、新たな不登校の子どもを出さないことにに対し、効果があることがわかりました。これらの取り組みを市内全12校（小学校8校・中学校4校）に広げ、学校が楽しいと思う子どもを増やすことが期待されています。



12校の連携強化による教職員の資質向上

[施策体系I-6-(3)アP62]

【施策の概要】

まずは、中学校区を中心に小小・小中学校間が連携をすることで、発達段階に応じた連続した指導ができるようになったり、教職員自身の学び合いによる資質向上を目指したりします。教職員同士が学び合い、全12校の学校同士がつながることで、子ども理解の深化や指導力の向上を図り、学校が楽しいと思う子どもを増やします。

【進行計画】

新規	28	29	30	31	32
「チームみよし」を合言葉とした学校間連携の強化	各中学校区での連携の強化	→	校務支援システム内に教育情報を集約し、連携を強化	→	12校での連携の強化

【成果指標】「学校に行くのは楽しい」児童生徒の割合

(全国学力・学習状況調査【小6・中3】)

現状 (H26)
小学生 86.1%
中学生 76.4%

目標 (H32)
小学生 90.0%
中学生 80.0%

※教職員が学び合い、子ども理解の深化や指導力の向上を図ることで、「学校が楽しいと思う」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」子どもを増やします

【達成状況】

重点施策		12校の連携強化による教職員の資質向上
担当課		学校教育課
H28	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> □三好丘中学校区では、中学校区の3校が連携し、人権教育に総合的に取り組んだ。小中学生が一緒にあいさつ運動に取り組んだり、人権啓発標語の書かれたのぼりを作成して地域にもPR活動をしたりした。 □校務支援システムを活用して、自校で行われる研究授業を他校に紹介し、参観者を募るなど、学校間の連携が進んだ。 □三好中学区での連携が継続し、南中学校区でも取り組みが始まった。
H29	行動予定	<ul style="list-style-type: none"> □これまでの三好中学校区での小中連携に加え、人権教育事業を実施している三好丘中学校区での小中連携を進める。授業での学び方のルールを校区内で共通化することで、中1ギャップを減らす。 □4月に開設した市教育センター 学びの森に、各校の研究物などを集め、市内の教員が授業づくりに役立てることできるようにする。
	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> □三好中学校区による連携を継続し、強化を進めた。 □三好丘中学校区で、小中合同あいさつ運動や部活動交流会など、小中連携活動を充実させた。 □市教育センターを開設に伴い、各校の研究物や文部科学省が作成した資料をライブラリに整理した。
	市民アンケート の分析と H30に向けた改善	<ul style="list-style-type: none"> □中1ギャップの軽減を促進するため、小中、小小連携をさらに進める。 □市教育センターの施設利用を推進するため、教職員への周知を行う必要がある。
H30	行動予定	<ul style="list-style-type: none"> □各中学校による小中、小小による連携活動を市内に広める。 □校務支援システム内に教育情報を集約し、各中学校区での取り組みを市全体に広げる。 □市教育センターの利用を推進するため、ライブラリに収蔵されている資料のリストを作成し、校務支援システムにより教職員に周知を図る。
	達成状況	
H31	行動予定	<ul style="list-style-type: none"> □教職員同士が得意分野を生かした自主研修を行うなど、学校を越えた連携を深める。
	達成状況	
H32	目標	<ul style="list-style-type: none"> □12校での更なる連携強化を目指す。
	達成状況	

【成果指標】「学校に行くのは楽しい」児童生徒の割合

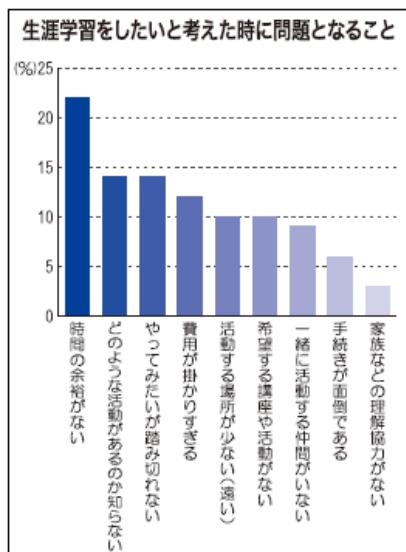
(全国学力・学習状況調査)

基準年(H26)	H28	H29	H30	H31	目標(H32)
小 86.1% 中 76.4%	小 85.4% 中 81.9%	小 86.8% 中 79.1%			小 90.0% 中 80.0%

※小学生は微増したものの、中学生にが微減の状態でした。学校生活の大半を占める授業改善に今後も力を入れ、楽しいと感じる子どもを増やしていきます。

作戦⑯

サンライブでいろいろなことが学べるようにします



(H26みよしの教育に関するアンケート【市民】)

現状と課題



みよし市では、市民一人一人が、生涯を通じて生きがいをもって学ぶことのできる場や機会を充実させるために、幅広い分野にわたる生涯学習講座を開催しています。

平成28年度にオープンするサンライブでは、講座の開催時間に柔軟性を持たせると共に、生涯学習情報の提供方法を改善し、誰もが、いつでも学べる環境づくりをいっそう進める必要があります。今後は、高齢社会を迎え、講座の需要も増すことが見込まれるため、社会情勢と市民のニーズに即した講座の開催がいっそう求められます。



サンライブの生涯学習拠点化の推進

[施策体系Ⅱ-1-(1)ア P66]

【施策の概要】

平成28年度にオープンするサンライブでは、夜間や土曜日・日曜日などの講座の開催も可能となります。年齢や性別に関わらず、学習意欲のある人々が、自分にあった講座に参加できるよう、生涯学習情報を市民に広く伝え、市民の生涯学習を活性化していきます。

【進行計画】

新規 生涯学習講座の 充実	28 サンライブでの 生涯学習講座 の開始	29 夜間講座の 充実	30 土曜日・日曜日 の講座の充実	31 講座体系の 見直し	32 新たな体系に による運営
---------------------	--------------------------------	-------------------	-------------------------	--------------------	-----------------------

【成果指標】生涯学習講座を受講した人の数 (生涯学習課調べ)

現状 (H26)
延べ2,563人

目標 (H32)
延べ4,500人

※講座の種類や内容をより充実させ、受講者数の増加を目指します

【達成状況】

重点施策		サンライブの生涯学習拠点化の推進
担当課		生涯学習推進課
H28	達成状況	<input type="checkbox"/> 7月2日に図書館学習交流プラザ「サンライブ」を開館し、生涯学習講座をサマースクールから開講した。 • 年間の講座としては、春夏講座22講座・サマースクール11講座・秋冬講座59講座・新春講座55講座を開講し、2,309人が受講した。
H29	行動予定	<input type="checkbox"/> 生涯学習講座を、公開講座2講座、生活創造講座92講座、国際理解講座33講座、情報・通信講座60講座、合計187講座を開催する。 <input type="checkbox"/> 夜間や土・日曜日に51講座を開催し、生涯学習機会を増やし、市民の生涯学習を活発化する。
	達成状況	<input type="checkbox"/> 生涯学習講座を、公開講座2講座、生活創造講座84講座、国際理解講座37講座、情報・通信講座60講座、合計183講座を開催した。 <input type="checkbox"/> 夜間や土曜日に43講座を開催し、生涯学習機会を増やし、勤労者の生涯学習を支援した。
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<input type="checkbox"/> アンケートからは、「時間の余裕がない」と回答した市民が47%であることから今後も夜間・土曜日・日曜日に講座を開催していく。 <input type="checkbox"/> アンケートで、「やってみたいが、経験がないので踏み切れない」と回答した市民が28%から24%に減少しているものの依然高いため、ニーズに即した初心者向け講座を増やしていく。
H30	行動予定	<input type="checkbox"/> 生涯学習講座を、公開講座2講座、生活創造講座を97講座、国際理解講座を33講座、情報・通信講座60講座、合計192講座を予定している。 <input type="checkbox"/> 夜間や土曜日、日曜日に講座を開催することにより、より参加しやすい生涯学習講座にする。
	達成状況	
H31	行動予定	<input type="checkbox"/> 講座体系・運営体制の見直し。
	達成状況	
H32	目標	<input type="checkbox"/> 新たな体制による運営。
	達成状況	

【成果指標】生涯学習講座を受講した人の数

(生涯学習推進課調べ)

基準年(H26)	H28	H29	H30	H31	目標(H32)
延べ * 2,235人	延べ 2,344人	延べ 2,309人			延べ 4,500人

* 基準年であるH26の延べ人数に誤りがあったため、あらためて修正した人数を表記しました。

※講座開催数を増やしたもの、受講者はあまり増えませんでした。今後もサンライブでの多様な講座を企画し、受講者数の増加を図っていきます。

作戦⑯

市民が発信する生涯学習活動を応援します

平成27年度 市内で活動する生涯学習活動登録団体

- ・渡辺民謡会
- ・演劇グループ遊
- ・西川流百花の会
- ・愛友クラブ
- ・みよし大正琴クラブ
- ・たまゆら
- ・居合道クラブ
- ・樊孟孫式太極拳研究会
- ・三好健康太極拳
- ・筑紫丸和会
- ・和太鼓龍桜流 三燐
- ・みよし子ども音楽セミナー「音遊合唱団」
- ・天辰神容流剣詩舞会
- ・天辰神容流岡崎神容館みよし詩吟部
- ・和太鼓龍桜流 嶉乃鼓
- ・みよし塚本写真塾
- ・バッチャワークサークル

現状と課題



みよし市では、生涯学習講座などで出会った市民が、気の合う仲間と共に自主的に活動する生涯学習団体を作っています。現在、本市には17の生涯学習活動登録団体があり、スポーツから伝統工芸まで幅広い活動を展開しています。

これらの団体が成果を発表できる場を準備したり、継続して活動ができるよう支援をしたり、団体を作りたいと思っている人たちを応援したりすることで、市民が発信する生涯学習活動を活性化することが求められています。



重点 施 策

地域や自主的サークルによる生涯学習の推進

[施策体系Ⅱ-1-(1)イ P66]

【施策の概要】

生涯学習団体が継続して活動できるよう支援をしたり、生涯学習を積極的に推進する地区や新たに団体活動を始める市民の自主的サークルを助成したりします。また、それらの団体が学習成果を発表できる機会をつくったり、団体の活動を市民に広く伝えたりすることで、市民主体の生涯学習活動を活性化します。

【進行計画】

新規 生涯学習活動団 体への支援	28	29	30	31	32
生涯学習活動団 体への助成	→		学習成果の発 表方法の充実	生涯学習活動 団体の広報	→

【成果指標】生涯学習活動を行っている団体の数 (生涯学習課調べ)

現状 (H27)
生涯学習活動登録団体
17団体



目標 (H32)
生涯学習活動登録団体
30団体

※生涯学習が市民の中に継続的
に根付くよう、生涯学習活動
団体づくりを応援します

【達成状況】

重点施策		地域や自主的サークルによる生涯学習の推進
担当課		生涯学習推進課
H28	達成状況	<input type="checkbox"/> 生涯学習活動団体として7団体へ助成し、各団体特色ある講座を開講した。 <input type="checkbox"/> 生涯学習発表会を3月4日(土)、5日(日)に開催し、472人が参加した。
H29	行動予定	<input type="checkbox"/> 生涯学習活動を積極的に推進する団体又は新たに生涯学習活動を始める団体に、その活動に要する費用を補助することにより、生涯学習の普及及び推進を図る。
	達成状況	<input type="checkbox"/> 生涯学習活動団体として7団体へ助成し、各団体特色ある講座を開講した。 <input type="checkbox"/> 生涯学習発表会を2月21日から3月4日まで開催し、304人が参加した。
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<input type="checkbox"/> アンケートからは、勉強・体験する場所が少ない(遠い)と回答した市民が23%であるので、各地域で行われる生涯学習活動団体への補助制度の周知を検討する。
H30	行動予定	<input type="checkbox"/> 生涯学習の普及、促進を目的に、生涯学習活動を積極的に推進する団体等に、活動費用の一部を助成する。 <input type="checkbox"/> 生涯学習に取り組む団体等に、活動の成果を発表する機会を提供するため、生涯学習発表会を開催する。
	達成状況	
H31	行動予定	<input type="checkbox"/> 生涯学習活動団体への助成 <input type="checkbox"/> 生涯学習発表会を実施予定 <input type="checkbox"/> 生涯学習活動団体の広報
	達成状況	
H32	目標	<input type="checkbox"/> 生涯学習活動団体への助成 <input type="checkbox"/> 生涯学習発表会を実施予定 <input type="checkbox"/> 生涯学習活動団体の広報
	達成状況	

【成果指標】生涯学習活動を行っている団体の数

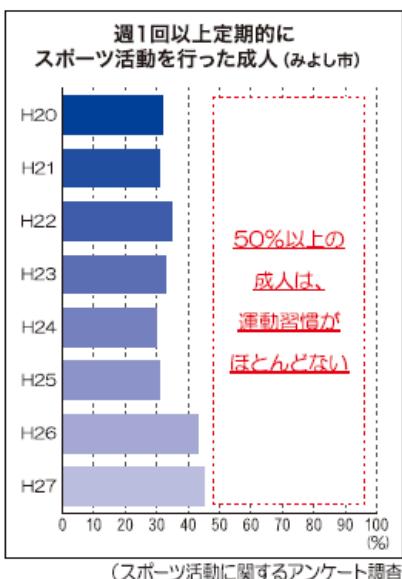
(生涯学習推進課調べ)

基準年(H26)	H28	H29	H30	H31	目標(H32)
生涯学習活動登録団体数 17	生涯学習活動登録団体数 15	生涯学習活動登録団体数 15			生涯学習活動登録団体数 30

※サンライズの利用方法の周知を行い、登録団体の増加を図っていきます。

作戦⑯

市民がいろいろなスポーツに親しめるようにします



現状と課題



全国的に、子どもの体力は低下傾向にあり、スポーツを行う子どもと、行わない子どもは二極化の傾向にあります。

これは本市の大人にもいえることであり、ランニングやチームスポーツに日頃から親しむ市民がいる一方、運動習慣のほとんどない成人も50%以上います。

みよし市では、地域全体でスポーツに親しむ環境を整備し、みんなで心身の健康を高めていくことが求められています。市民が生涯にわたり健康な暮らしを送るため生涯スポーツ推進の必要性が高まっています。



総合型地域スポーツクラブの育成

〔施策体系Ⅱ-2-（1）ア P67〕

【施策の概要】

スポーツ推進計画「みんなでスポーツ いいじゃんみよし」に基づき、スポーツ活動の支援や、スポーツを通じたコミュニティづくりを行っています。総合型地域スポーツクラブに関しては、現在、「なかよしクラブ」と「三好さんさんスポーツクラブ」の二つのクラブが活動しています。今後は、きたよし地区での新たなクラブ設立と活動を支援し、市民がスポーツに親しむ機会を増やしていきます。

【進行計画】

新規	28	29	30	31	32
総合型地域スポーツクラブの支援と環境整備	きたよし地区スポーツクラブの設立	小中学校とスポーツクラブの連携強化	クラブマネージャーなどの資格取得に対する支援	活動拠点となる小中学校の屋外照明設備の設置	小中学校の部活動の支援

【成果指標】総合型地域スポーツクラブで活動した人の数

（スポーツ行政概要）

現状（H26）
延べ42,641人



目標（H32）
延べ50,000人

※新たなクラブを設立することで、総合型地域スポーツクラブで活動する市民の裾野を広げます

【達成状況】

重点施策		総合型地域スポーツクラブの育成
担当課		スポーツ課
H28	達成状況	<input type="checkbox"/> 6月18日総会開催。三好ともいきスポーツクラブを設立した。 ・第4回設立準備会を開催。平成27年度事業報告・収支決算及び平成28年度事業計画・収支予算を承認した。 ・第5回設立準備会を開催。準備会規約の廃止を承認、準備会を解散した。
H29	行動予定	<input type="checkbox"/> 中学校の部活動支援に対して総合型地域スポーツクラブと連絡調整を行う。 <input type="checkbox"/> 総合型地域スポーツクラブに対して補助金を交付し、クラブの円滑な運営を支援する。
	達成状況	<input type="checkbox"/> 中学校部活動支援として、なかよしクラブではソフトテニス、三好さんさんスポーツクラブではバレーボールをそれぞれ受け入れた。 <input type="checkbox"/> 市内3総合型地域スポーツクラブに対して、それぞれ運営補助金を交付。またあわせて、三好さんさんスポーツクラブにはクラブハウス整備費補助金を交付し、クラブの円滑な運営を支援した。
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<input type="checkbox"/> 中学生で、授業以外でスポーツを「ほぼ毎日行った」が減少し、「週に3~5日行った」が増加した要因の一つとして、中学校の部活動の時間が短くなったことがあげられる。部活動の時間以外でのスポーツに親しむ方法の一つとして、総合型スポーツクラブでの活動が期待される。
H30	行動予定	<input type="checkbox"/> 市内3総合型地域スポーツクラブによる、レクリエーションスポーツフェスタ等のスポーツイベントへの協力及び事業PR。
	達成状況	
H31	行動予定	<input type="checkbox"/> 小中学校の屋外照明設備の設置についてスポーツクラブと小中学校と協議を行う。
	達成状況	
H32	目標	<input type="checkbox"/> 小中学校の部活動支援を行う。
	達成状況	

【成果指標】 総合型地域スポーツクラブで活動した人の数

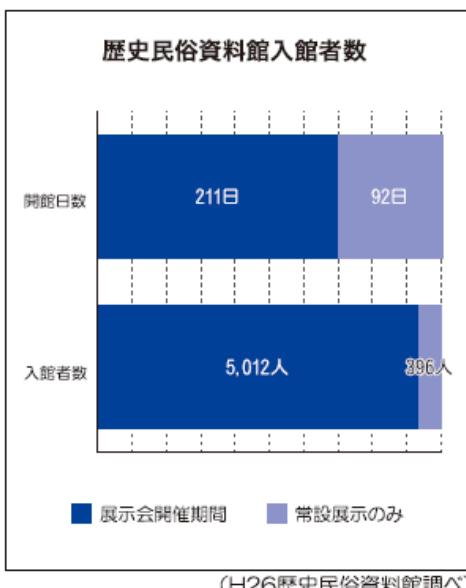
(スポーツ行政概要)

基準年(H26)	H28	H29	H30	H31	目標(H32)
42,641人	51,003人	51,815人			50,000人

※活動した人の数は年々増加しています。
 すでに平成32年の目標値は超えていますが、事業のPRにより、さらなる増加を図ります。

作戦⑯

みよしの歴史や文化を広く市民に発信します



現状と課題



歴史民俗資料館は昭和57年11月に開館して以来、市内及び市外からたくさんの方々が見学に訪れました。しかし、年に4回開催される企画展・特別展の開催期間は多数の入館者があるものの、常設展示のみの期間の入館者数は伸び悩んでいます。また、本市の誇れる遺産である猿投古窯関係が常設展示では見学できないという課題もあります。

このため常設展示を更新し、市民に猿投古窯をはじめ、本市の歴史や文化を広く発信していくことが必要となっています。

重 点 施 策

歴史民俗資料館展示資料の充実

[施策体系Ⅱ-3-(1)ア P70]

【施策の概要】

歴史民俗資料館の常設展示をリニューアルし、猿投古窯関係の展示を、開館時にいつでも見学できるようにします。民具についても展示物を更新し、歴史の移り変わりなど、みよしの歴史や文化を学習できるようにします。また、企画展・特別展についても郷土の偉人・文化・民俗・考古などさまざまなテーマで充実していきます。

【進行計画】

新規	28	29	30	31	32
歴史民俗資料館常設展示の更新	展示室リニューアル工事	展示室リニューアルオープン	→	市制施行10周年記念事業準備	市制施行10周年記念事業

【成果指標】みよし市の歴史に关心のある市民の割合

(みよしの教育に関するアンケート【市民】)

現状 (H26)
有数の陶器産地であったことを知っている27%



目標 (H32)
有数の陶器産地であったことを知っている60%

※展示のリニューアルなどで資料館に訪れる人を増やし、市民の歴史に対する関心を高めます

【達成状況】

重点施策		歴史民俗資料館展示資料の充実
担当課		資料館
H28	達成状況	<input type="checkbox"/> 展示リニューアル業務委託により、2階展示室を改修し、ひな人形展を開催した。(1月～3月)。常設展示室を3月末にリニューアル。 •リニューアルオープンチラシ・パンフレットの作成 <input type="checkbox"/> 古窯を理解してもらうため出張授業の説明(2校で開催)
H29	行動予定	<input type="checkbox"/> 企画展(3回)・特別展(1回)を開催する。 <input type="checkbox"/> リニューアル記念講演会を開催する。 <input type="checkbox"/> リニューアル記念体験イベントを3種類実施する。
	達成状況	<input type="checkbox"/> 企画展(「みよし最後のやきもの」、「昆虫展」、「ひな人形展」)並びに特別展「伊勢門水展」を開催した。 <input type="checkbox"/> 石川家住宅で「なつまつり」、「町なかアートギャラリー」、「クイズラリー」を開催した。 <input type="checkbox"/> 資料館のリニューアルを記念して、古窯に関する講演会並びに「手回しロクロ」・「大甕」・「灰釉陶器」の3種類の陶器づくりの講座を開催した。
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<input type="checkbox"/> 本市がかつては国内有数の陶器の産地であったことを知らない市民が73%から67%に減ったものの、依然知らない市民が多いので、今まで以上に情報発信する必要がある。 <input type="checkbox"/> 石川家住宅を知らない小学生が60%から51%と着実に減っていることから、資料館についても小中学校のニーズに合致した資料や情報を継続して提供する必要がある。 <input type="checkbox"/> 大きく開発され発展を遂げた、本市の隠された歴史や地域に根ざした文化を市民に気づいてもらえるよう、市民の意向を踏まえながら施策を展開していく必要がある。
H30	行動予定	<input type="checkbox"/> 本市がかつて国内有数の陶器生産地であったこと等のPR ①陶器作りの小学校出張授業の拡大(2校→4校)。 ②市指定文化財である黒窯27号窯を含む、市内文化財めぐりの実施。 ③土器型のクッキーを作る体験イベントを開催し、本市のやきものの歴史や文化のPR。 <input type="checkbox"/> 資料館資料の展示や情報提供の充実 ①常設展示で、新たに「むかしの道具」に関連したテーマ展示を実施し、解説資料を作成 ②民具の出張授業などのプログラムや、貸出民具の解説資料を作成し、小中学校へ提供 ③東日本を中心に千点を越える石器をまとめた、稻垣氏寄贈資料の図録作成
	達成状況	
H31	行動予定	<input type="checkbox"/> 市制施行10周年記念事業準備
	達成状況	
H32	目標	<input type="checkbox"/> 市制施行10周年記念事業
	達成状況	

【成果指標】みよし市の歴史に関心のある市民の割合

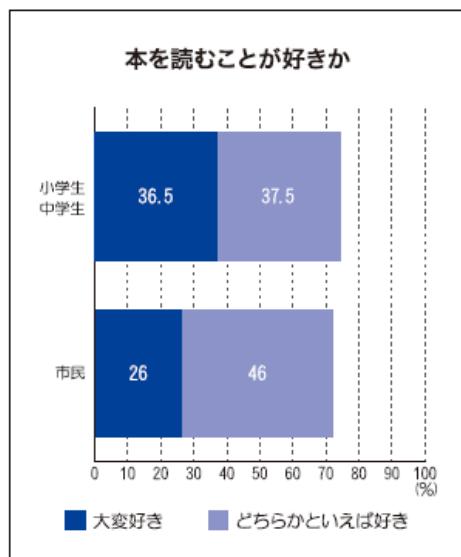
(みよしの教育に関するアンケート【市民】)

基準年(H26)	H29 アンケート	H31 アンケート	目標(H32)
有数の陶器産地であったことを知っている 27%	有数の陶器産地であったことを知っている 33%		有数の陶器産地であったことを知っている 60%

※情報発信を続ける中、少しずつ市の歴史に関心のある市民が増えてきました。今後も、様々な企画を計画していきます。

作戦⑯

読書好きな市民が増えるような環境づくりをします



現状と課題



サンライズに新しい図書館ができます。新図書館は30万冊を超える蔵書収容能力を持つ、子どもからお年寄りまで皆が利用しやすい施設となります。

1階に生活に関する一般図書を配架し、新たにティーンズコーナーを設置します。また、定期的におはなし会を開催するなど、新しい魅力がいっぱいです。

平成26年の調査で「本が好き」と答えた市民は、大人も子どもも約70%ですが、新しい図書館の完成で、本に親しむ市民がますます増えることを期待しています。



サンライズでの充実した図書館サービスの推進

[施策体系Ⅱ-3-(2)ア P72]

【施策の概要】

新図書館は、平日・土曜日・祝日は午後7時まで、日曜日は午後6時まで開館します。新刊本は毎年1万冊以上、雑誌は400誌を目標に購入します。そして、1階に一般図書の中でも生活に関する図書を配架し、児童室の他に新たにティーンズコーナー、おはなしのへや、閲覧室を設置します。また、第3次子ども読書活動推進計画を策定します。

【進行計画】

新規 新図書館の整備	28	29	30	31	32
	サンライズの オープン、読書 ノートの導入	子ども読書活動 推進計画の 改定	蔵書数 233,000冊 以上	図書館の管理 運営方法の 見直し	→

【成果指標】「本を読むことが好き」児童生徒・市民の割合

(みよしの教育に関するアンケート)

現状 (H26)
小学生・中学生 74%
市民 72%

目標 (H32)
小学生・中学生 80%
市民 80%

※本に触れる機会を増やすことで、本を読むことが好きな子ども、市民を増やします

【達成状況】

重点施策		サンライブでの充実した図書館サービスの推進
担当課		生涯学習推進課
H28	達成状況	<input type="checkbox"/> 計画的に図書を購入し、28年度末の蔵書数は、225,562 冊。 • 図書 13,341 冊、視聴覚資料 304 点購入
H29	行動予定	<input type="checkbox"/> 第3次子ども読書活動推進計画に基づき、学校への団体貸出の方法として、配本事業を試行で実施する。 <input type="checkbox"/> 図書館学習交流プラザ「サンライブ」の開館により増加した利用者の要望に応える資料を取り揃える。
	達成状況	<input type="checkbox"/> 7月校長会議で配本事業の概要を説明し、「貸出期間1か月間(30日)、1回につき30冊以内」とする配本事業を、10月より試行で実施した。29年度末現在延べ7校からの申請があった。 <input type="checkbox"/> 図書館学習交流プラザ「サンライブ」の開館により旧図書館と比較して、貸出者数は約3倍に、貸出冊数は約2倍へと増加した。利用者の要望に応えるため、市内利用者へ5冊までリクエストの受付を行った。
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<input type="checkbox"/> アンケートからは、「本を読むことが好き」と答えた小・中学生、市民の割合が共に若干減少しているが、ほとんど本を読まない中学生が7%減少し、たくさん本を読む小学生が7%増加していることから、小中学校での読書活動の推進は少しずつ進んでいると思われる。 <input type="checkbox"/> サンライブにまだ行ったことのない小中学生、市民がまだ多くいることから、足を運んでいただけるよう図書館の魅力を発信していく必要がある。
H30	行動予定	<input type="checkbox"/> 中央図書館の蔵書冊数250,000冊以上 ①生活に関する一般図書の拡充 ②学校支援用図書を購入し、各学校の調べもの学習などに提供 ③各学校への配本事業を引き続き実施
	達成状況	
H31	行動予定	<input type="checkbox"/> 図書館の管理運営方法の検討(指定管理者制度)
	達成状況	
H32	目標	<input type="checkbox"/> 新たな手法での管理運営(委託又は指定管理者制度)
	達成状況	

【成果指標】「本を読むことが好き」児童生徒・市民の割合

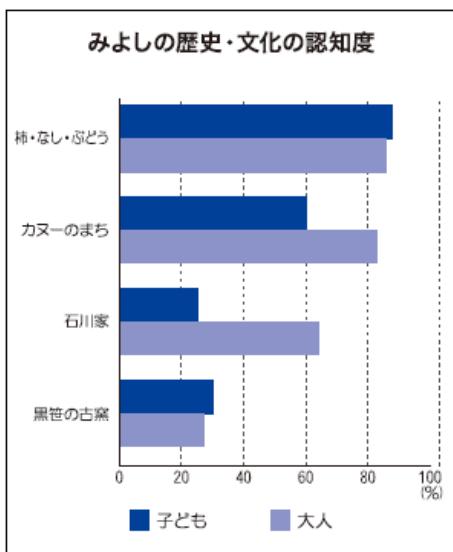
(みよしの教育に関するアンケート【保護者】)

基準年(H26)	H29 アンケート	H31 アンケート	目標(H32)
小・中学生 74% 市 民 72%	小・中学生 72% 市 民 68%		小・中学生 80% 市 民 80%

※小中学生、市民共にポイントが少し下がったので、サンライブに来る機会を増やせるよう図書館利用者数の増加を図ります。

作戦⑯

みよしのことが大好きになる学習をします



現状と課題



みよし市の有名な「人・もの・こと」というと、多くの子どもは「柿・なし・ぶどう」のことを思い浮かべます。これらの果樹は、市外でも人気を博しており、みよしの特産物として定着しています。

しかし、明治時代の生活の様子が石川家住宅に保存されていることや、「カヌーのまち」として20年の歴史を重ねていることなどが、子どもたちに広く理解されているとはいえない。これからみよしを支える子どもたちに、みよしの良さを伝え、「ふるさとみよし」に誇りを感じられるようにすることは、喫緊の課題です。



ふるさと学習の推進

[施策体系III-1-(1)ア P78]

【施策の概要】

各学校でこれまでに開発された地域教材を集約して、みよし市に関する学習をまとめたり、「ふるさとみよし」を学ぶことのできる体験的プログラムを開発したりします。このふるさと学習を進めるなかで、教職員にもみよし市を知ることのできる研修を行ったり、保護者に対しても啓発を行ったりします。

【進行計画】

新規 ふるさと学習の 推進	28	29	30	31	32
	副読本「みよし」 の改訂	「ふるさとみよし」 体験的プログラム の開発	「ふるさとみよし」 体験的プログラム の実践	新学習指導要 領に対応した 副読本の改訂	「ふるさとみよし」 体験的プログラム の見直し

【成果指標】「みよしのことが好きである」児童生徒の割合

(みよしの教育に関するアンケート【小5・中2】)

現状 (H26)
小学生 一
中学生 一



目標 (H32)
小学生 80%
中学生 80%

※ふるさと学習を推進すること
で、「ふるさとみよし」が好き
と感じる子どもを増やします

【達成状況】

重点施策		ふるさと学習の推進
担当課		学校教育課
H28	達成状況	<p><input type="checkbox"/>副読本「みよし」14版完成・編集委員会を7回開催し、現在と昔のみよしに子どもたちが興味をもてるよう内容を工夫し、編集作業を行った。(6月～1月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の農業、工業、商業、公共に関する施設やそこで働く人について情報収集を行い、写真等「データを集めた。(6月～1月)
H29	行動予定	<p><input type="checkbox"/>本年度の副読本「みよし」活用状況を調べる。</p> <p><input type="checkbox"/>小・中学校において市内のどのような施設の見学や体験活動が行われているか状況を調べ、データベースを作成する。</p> <p><input type="checkbox"/>初任者教職員及び教職員の中の希望者を対象に市内見学等研修を行い、子どもへ本市の魅力を伝えられる教職員を育成する。</p>
H29	達成状況	<p><input type="checkbox"/>本年度の副読本「みよし」を活用し、小・中学校において市内のどのような施設の見学や体験活動が行われているか状況を調べ、データベースを作成している。</p> <p><input type="checkbox"/>初任者教職員及び教職員の中の希望者を対象に、「みよしを知ろう」という研修を実施し、本市の「教育」「食」「文化」「歴史」「農業」「工業」「スポーツ」について理解が深まった。</p>
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<p><input type="checkbox"/>アンケートでは、どの世代も8～9割程度が、みよしのことが好きと回答している。28年度に新しく作成した副読本「みよし」などで、本市の魅力が伝わり故郷に対する愛着が更に増すことが期待される。</p> <p><input type="checkbox"/>本市の祭りや特産物についての知識が小学生で9割に達成していないため、更なる周知を強化していく必要がある。</p>
H30	行動予定	<p><input type="checkbox"/>市内見学・体験活動データベース見直し</p> <p><input type="checkbox"/>副読本「みよし」の教職員への配付</p>
H30	達成状況	
H31	行動予定	<p><input type="checkbox"/>15版副読本「みよし」の編集・出版</p>
H31	達成状況	
H32	目標	<p><input type="checkbox"/>15版副読本「みよし」活用事例作成</p>
H32	達成状況	

【成果指標】「みよしのことが好きである」児童生徒の割合

(みよしの教育に関するアンケート【小学生・中学生】)

基準年(H26)	H29 アンケート	H31 アンケート	目標(H32)
小学生 一	小学生 82%		小学生 85%
中学生 一	中学生 78%		中学生 85%
市 民 一	市 民 93%		市 民 95%

※市民にも同様のアンケートを取りました。
H29 が基準年となるため、H32 の目標を改めました。

作戦②〇

地域の人と一緒に学ぶ学校づくりをします

市内の小中学校で行われているボランティアの例

- ・絵本・図書の読み聞かせ
- ・外国語活動の授業支援
- ・図書館整備・貸出補助
- ・家庭科授業補助
- ・登下校の見守り(スクールガード)
- ・校外学習の引率補助
- ・学校の樹木の伐採
- ・花づくり

学校が助けて欲しいことを伝えてくれれば、もっと地域の人も協力できると思います。協力することが当たり前の地域になると良いです。

(行政区ヒアリングより)



現状と課題



現在、小中学校では、たくさんのボランティアの方が活動しています。絵本の読み聞かせや、図書館司書の補助、そしてミシンの使い方の指導補助など、さまざまな場面で多くの保護者が手助けをしてくれています。また、校外学習の際には、地域の方も安全を見守ってくれています。

地域の活力を生かした教育環境整備は、子どもにとっても支える方々にとっても、大変有意義な取り組みとなっています。大人同士も学校をきっかけにつながり合うことで、地域全体の活力を高めることが期待されています。

重 点 施 策

学校ボランティアをきっかけとした地域教育力の結集

[施策体系Ⅲ-2-(1)ア P79]

【施策の概要】

学校ごとに独自に取り組んでいる学校ボランティアの取り組みを、市内の全小中学校に広げます。市全体で地域の活力を取り入れた教育を行うことで、より開かれた学校づくり、学校をきっかけとした地域の活性化を目指します。また、地域の人や大学生が勉強を教える地域未来塾を開いたり、ボランティアと学校を結びつける人材の配置を目指したりするなど、家庭・地域・学校のより一層の連携を目指します。

【進行計画】

新規	28	29	30	31	32
学校ボランティアの仕組みの拡充	地域未来塾の実施 (サンライブ内)	市民への学校ボランティア制度の周知強化	ボランティア人材バンクの完成	地域コーディネーターによるボランティアの派遣モデル実施	地域コーディネーターの配置促進

【成果指標】学校ボランティアを活用する取り組み(学校教育課調べ)

現状(H26)
各学校での創意工夫による取り組み

目標(H32)
地域と学校の連携を促進する地域コーディネーター 中学校区1名

※家庭・地域・学校の連携が、市全体に広がっていくよう、地域コーディネーターの配置を目指します

【達成状況】

重点施策		学校ボランティアをきっかけとした地域教育力の結集
担当課		教育行政課・学校教育課
H28	達成状況	<p><input type="checkbox"/>「みよし未来塾」では地域の力で中高生への学習指導を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい交流館を会場に、夏休みに10日間冬休みに3日間実施し、夏休みには延べ463人、冬休みには延べ73人が参加した。 ・夏に引き続いて参加した者が<u>73%</u>、来年度も参加したい者が<u>64%</u>となるなど、利用者から大変好評な声が聞かれた。
H29	行動予定	<p><input type="checkbox"/>地域未来塾の継続実施</p> <p><input type="checkbox"/>学校支援ボランティア制度の市民への周知強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校から必要としているボランティアの種類(読み聞かせ、外国語活動、図書館等)を集約し、広報を通じて市民に募集を行う。
	達成状況	<p><input type="checkbox"/>「みよし未来塾」の拡大実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み10日間に延べ375人、冬休み3日間に延べ105人の中高生が参加した。 ・冬休みは、試験的に実施会場を市内2箇所【①サンライズ(ふれあい交流館)、②カリヨンハウス】としたため、北中・三好丘中生徒の参加が増えた。 <p><input type="checkbox"/>「広報みよし」で学校支援ボランティアを募集した。市民・学生ボランティア82名が登録をし、各校で活躍した</p>
	市民アンケートの分析とH30に向けた改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに興味がある市民は56%と半数を超えており、また、「地域の教育力を積極活用すべき」と強く考えている教職員も半数を超えており、本市においても、地域教育力を活用する準備は整っているので、広い広報と、気軽に参加できる仕組みづくり、活用する学校側の準備が必要である。
H30	行動予定	<p><input type="checkbox"/>各校のボランティア活用に関するアンケートの実施(ボランティア、学校)</p> <p><input type="checkbox"/>安心して参加してもらうためのボランティア保険等の予算の獲得準備</p> <p><input type="checkbox"/>市民ボランティアを発掘するための広い広報</p>
	達成状況	
H31	行動予定	<input type="checkbox"/> 地域コーディネーターによるボランティアの派遣モデルを実施
	達成状況	
H32	目標	<input type="checkbox"/> 地域コーディネーターの配置拡大
	達成状況	

【成果指標】学校ボランティアを活用する取り組み

(学校教育課調べ)

基準年(H26)	H29 調査	H31 調査	目標(H32)
各学校での創意工夫による取り組み	学生ボランティア活用 12校 保護者ボランティア活用 12校 地域ボランティア活用 12校 ※窓口 教頭(12校)・学年(4校) 教務(1校)・担当教諭(1校)		地域学校の連携を促進する地域コーディネーター 中学校区1名

※ボランティアの活用はどの学校でも盛んに行われていますが、窓口を教頭が担い、仕事量が増えている学校が多いです。

第3章 教育委員会の活動等に関する事業実施状況報告

みよし市教育委員会では、定例会議を毎月1回の年12回、必要に応じて臨時会議を開催しています。ここでは、平成29年度に開催した教育委員会の開催状況、教育委員会活動の先進地研修を始めとする研修の実施状況、教育委員の学校訪問の状況などをまとめました。

1 教育委員会議

(1) 教育委員会議について

執行機関としての教育委員会は、委員によって構成される教育委員会議で教育に関する基本方針や重要事項を決定しています。

本市教育委員会では、「教育長に対する事務委任規則」第2条に、教育長に委任する事項を、次に掲げる事項以外と定めています。すなわち、以下に示した(1)～(17)の事項が、教育委員会議において議決することが必要な事項です。

【参考】「教育長に対する事務委任規則」第2条

第2条 教育長に委任する事項は、次に掲げる事項以外の事項とする。

- (1) 教育行政の運営に関する基本方針を決定すること。
- (2) 学校、その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること。
- (3) 重要な教育財産の取得及び処分を申し出ること。
- (4) 県費負担教職員(以下「教職員」という。)の懲戒及び教職員たる校長の任免、その他の進退について内申すること。
- (5) 教職員の服務、監督の一般方針を定めること。
- (6) 教育委員会事務局職員及び学校、その他教育機関の職員(教職員を除く。)の任免、その他人事に関すること。
- (7) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること。
- (8) 教育予算、その他議会の議決を経るべき事件の議案について意見を申し出ること。
- (9) 教育委員会の規則及び規程の制定又は改廃を行うこと。
- (10) 学校の組織編成、教育過程、学習指導、生徒指導及び職業指導の基本方針に関すること。
- (11) 附属機関の委員の任免を行うこと。
- (12) 学校の通学区域を設定又は変更すること。
- (13) 教科用図書の採択及びその他の教材の取扱に関すること。
- (14) 教職員の研修に関すること。
- (15) みよし市文化財保護条例(昭和46年条例第8号)に基づく文化財の指定及び解除に関すること。
- (16) 請願及び重要な陳情に関すること。
- (17) 前各号に掲げるもののほか、重要かつ異例に属すること。

(2) 平成 29 年度 教育委員会議開催状況及び提出議案一覧

開催日	議案番号	提 出 議 案
第 4 回 定 例	4 / 13 議案第 21 号 議案第 22 号	平成 29 年度奨学生の認定について 「みよし市教育委員会情報セキュリティ基本方針」について
第 5 回 定 例	5 / 16 議案第 23 号 議案第 24 号 議案第 25 号 議案第 26 号 議案第 27 号 議案第 28 号 議案第 29 号 議案第 30 号 議案第 31 号 報告第 1 号	臨時代理した事項の承認を求ることについて 教育予算、その他議会の議決を経るべき議案に関する意見の申出について 平成 29 年度みよし市社会教育委員の委嘱について 学校評議員の承認について 平成 29 年度みよし市小学生市派遣候補者の決定について 平成 29 年度みよし市友好都市中学生派遣候補者の決定について 平成 29 年度みよし市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 平成 29 年度みよし市スポーツ推進審議会委員の解嘱及び委嘱について 平成 29 年度みよし市図書館協議会委員の任命について みよし市一般会計繰越明許費の繰越について
第 6 回 定 例	6 / 14 議案第 32 号 議案第 33 号 議案第 34 号	平成 29 年度みよし市スポーツ推進審議会委員の解嘱及び委嘱について 平成 29 年度みよし市少年スポーツ交流団（サッカー）について みよし市教育委員会後援等名義使用の承認について (1) 演劇「クリスマスキャロル」 (2) 本場イギリスの劇団がやってくる！ホワイトホースシアター — “L i z z i e and the P i r a t e ” (3) サンアート探検隊 (4) 愛知県立芸術大学管弦楽団 秋季特別演奏会
第 7 回 定 例	7 / 21 議案第 35 号 議案第 36 号	平成 30 年度みよし市立小中学校が使用する教科用図書の採択について みよし市教育委員会後援等名義使用の承認について (1) ハタラク C A R N I V A L
第 8 回 定 例	8 / 17 議案第 37 号 議案第 38 号 議案第 39 号	教育予算、その他議会の議決を経るべき議案に関する意見の申出について (1) 工事請負契約の締結について (サンアート大規模改修(3期) 舞台照明工事) (2) 教育委員会の委員の選任について (3) 教育委員会の委員の選任について (4) みよし市図書館学習交流プラザ設置条例の一部を改正する条例 (5) 平成 29 年度みよし市一般会計 9 月補正予算（教育費） みよし市図書館学習交流プラザ管理規則の一部を改正する規則について みよし市教育委員会後援等名義使用の承認について (1) ハッピーサマーフェスタ 2017 i n 豊田スタジアム (2) うきぐも食堂講演会 (3) みよし市文化協会創立 50 周年記念式典・記念講演
第 9 回 定 例	9 / 21 議案第 40 号 議案第 41 号	平成 30 年度教職員定期人事異動方針について みよし市教育委員会後援等名義使用の承認について (1) みんなでつくることども夢の商店街 ハタラク K I D S M A L L (2) ちびっこ相撲 みよし場所
第 10 回 定 例	10 / 19 議案第 42 号	臨時代理した事項の承認を求ることについて
第 11 回 定 例	11 / 16 議案第 43 号 議案第 44 号 議案第 45 号	みよし市立学校体育施設スポーツ開放規則の全部を改正する規則について 教育予算、その他議会の議決を経るべき議案に関する意見の申出について 「みよし市いじめ防止基本方針（改定案）」について

第12回 定期例	12/21		※ 提出議案なし
第1回 定期例	1/18	議案第1号	臨時代理した事項の承認を求めるについて
第2回 定期例	2/15	議案第2号 議案第3号 議案第4号 議案第5号	平成30年度教育行政方針について みよし市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について みよし市教育委員会公所設置規程の一部を改正する規程について 教育予算、その他議会の議決を経るべき議案に関する意見の申出について (1) みよし市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償支給に関する条例の一部を改正する条例 (2) 平成29年度みよし市一般会計3月補正予算（教育費） (3) 平成30年度みよし市一般会計予算（教育費）
第3回 定期例	3/15	議案第6号 議案第7号 議案第8号 議案第9号 議案第10号	みよし市少人数学級編制の実施に係る任期付市費負担教員の給与等に関する規則の一部を改正する規則について みよし市教育委員会教育長の権限に属する事務の決定権限に関する規程の一部を改正する規程について みよし市青少年補導員の委嘱について 平成30年度みよし市文化財保護委員の委嘱について 平成30年度みよし市教職員研修基本方針について
第1回 臨時	3/30	議案第11号 議案第12号 議案第13号 議案第14号 議案第15号 議案第16号 議案第17号	平成30年度みよし市教育委員会事務局職員の人事について 平成30年度みよし市立小中学校教職員人事について 学校施設利用許可の承認について 平成30年度みよし市立小中学校の学校医等の委嘱について 平成30年度みよし市友好都市中学生派遣事業実施要項について 平成30年度みよし市地区スポーツ委員の委嘱について 平成30年度みよし市スポーツ推進委員の委嘱について

2 教育委員県外視察研修

例年、先進的な実践を重ねている県外の教育委員会を訪問し、特色ある教育環境づくりや運営状況について研修を行います。今年度は、平成32年より始まる小学校3.4年生の外国語活動と5.6年生の英語科の授業に向けて、金沢市で行われている金沢型学校教育モデルと、それに基づく小中一貫英語教育について、また越前市立中央図書館を視察し、図書館を中心に行われている読書活動について研修してまいりました。

視察先	石川県金沢市教育委員会、福井県越前市教育委員会・越前市立中央図書館
日 程	平成29年7月27日(木)～28日(金)
参加者	今瀬教育長・古田教育長職務代理者・久野委員・天野委員・吉澤教育部参事
テーマ	金沢市：金沢型学校教育モデルと英語科学習指導の研修 越前市：越前市立中央図書館の視察及び越前市における読書活動の研修

1 所感

(1) 金沢型学校教育モデルと英語科学習指導について

- ・金沢型学校教育モデルは、
 - 子ども達が何を学ぶかという内容として「金沢型学習プログラム」
 - どのように学ぶかという方法として「金沢型学習スタイル」
 - これらを支える学びの土台として「金沢型小中一貫教育」

の3つの要素で構成されています。

このうちの「金沢型小中一貫教育」では、全ての中学校区において行う共通の取組みとして[基本計画]が作成され、市内の小中学校の先生方が同じ目標を持って教育活動を進めておられます。中学校区内での交流は児童と生徒が小学校と中学校を行き来するだけでなく、先生方も小中学校相互で授業参観をし、中学校の先生が小学生への授業を行うなど、小学校と中学校の垣根を取り払う工夫がされています。また先生方の研修用に、各教科の授業の仕方を映した映像資料を作成し、授業力の向上に力を入れておられます。是非、みよし市でもこうした映像資料による研修を取り入れ、先生方の役に立てていただきたいと思います。

・金沢市の英語科学習指導は、平成24年度に「小中一貫英語教育新カリキュラム」が実施され、金沢市独自の教材に基づいた学習指導が行われています。習得語彙数は小学校で約400語、中学校で1300語を目標に、ドリルや小テストなどで英単語の定着を図っています。また「This is KANAZAWA」という副読本は英語で金沢市のことが紹介されていて、子ども達が自分のふるさとを、英語で海外の方に説明できるようになっていました。みよし市は市内の中学生代表団が毎年、友好都市であるコロンバス市へ派遣されます。本市でもこうした教材等を作成することで、友好都市や海外の方との交流に、たくさんの生徒が興味や関心を持つきっかけとしてほしいと思います。小学校での英語科の実施に向けては先生、保護者とともに不安をお持ちだと思います。そういう気持ちは丁寧に応えながら、本市の英語教育を作り上げていただきたいと思います。

(2) 越前市立中央図書館と越前市の読書活動について

・越前市には市立図書館が2館ありますが、今回は中央図書館を視察しました。越前市は平成25年に「読書のまち宣言」をし、赤ちゃん・子ども・家族・地域・市民、市内全ての住民の読書活動を推進しています。明るく開放的な図書館に隣接する公園内にミニ遊園地を作るなど、親子や家族で訪れやすい環境作りに努力されていました。また館内にはたくさんの企画展示コーナーが設置され、テーマに沿って資料や展示物を併設するなど思わず足を止めて見入ってしまうような工夫がなされていました。数多くの展示コーナーの中には、越前

市にゆかりのある、かこさとしさん、いわさきちひろさんを特集するコーナーもあり、図書館を訪れた子ども達にも、ふるさとを大切に思うお二人の気持ちが伝わるような温かいコーナーとなっていました。

・越前市立図書館の、学校への支援がとても充実していました。例えば、学校で調べ学習をするときに図書館に申請をすると、そのテーマに沿った本を選んだうえでクラスに貸し出しをしてくれます。また市立図書館の司書が学校図書館を訪問して相談を受けたり、アドバイスをしたり、さらに市立図書館において学校図書館の図書ボランティアを育成するなど、学校図書館への支援が手厚く行なわれています。越前市の図書館は「来館者を待つだけでなく出かける図書館」としても活動をされています。越前市内の福祉施設や高齢者施設、公民館や児童センター等、積極的に図書の団体貸し出しを働きかけておられます。そして近隣の市の図書館との提携により、どちらでも借りられ、どちらでも返せるようになっています。みよし市でも豊田市立図書館との提携が可能になれば、市民の読書の機会が格段に増えると思います。本市図書館への来館者を増やす取組みに加え、こうした市民の読書活動の推進を図る取組みも検討していただけたと良いと思います。



2 その他

金沢市教育委員会、越前市教育委員会の皆様にはお忙しい中、視察研修をさせていただきました。質疑に長い時間を割いていただき大変勉強になりました。また、みよし市教育委員会事務局の皆様には、手配やご準備等をしていただき感謝申し上げます。事前、当日ともに両委員会との連絡を密にしてくださったことで、研修先での勉強が充実したものとなりました。ありがとうございました。

3 教育委員学校訪問

市内全小中学校（8 小学校・4 中学校）を訪問し、各校の特色ある学校づくりや運営状況について把握することに努めました。

（1）訪問の視点

- ア 創意工夫を生かした特色ある学校づくりがどのように行われているか。
- イ 学校運営の工夫や課題は何か。
- ウ 授業など、諸活動における子どもの学校生活の実態はどのようか。

（2）訪問日程

訪問日	学校名		
9月11日	南部小学校	南中学校	天王小学校
9月20日	黒雀小学校	北中学校	緑丘小学校
9月26日	中部小学校	三好中学校	三吉小学校
9月31日	三好丘中学校	三好丘小学校	北部小学校

4 各種行事への参加

市内で開催される、様々な行事に積極的に参加し、学校教育・家庭教育・社会教育の現状把握に努めました。

＜教育長・教育委員の参加した主な行事（主なもの・会議への出席等は除く）＞

4月	教育委員会事務局職員 小中学校教職員 辞令伝達並びに交付式
	小中学校入学式・始業式
	第34回三好池桜マラソン
	文化協会総会
	戦没者追悼式
	みよし市教育研究会総会
	アメリカ空軍太平洋音楽隊みよし市親善公演
	地域総合スポーツクラブ総会
	市長杯争奪中学校総合体育大会
5月	春の文化展
	小学校運動会
	中学校体育大会
	教育委員の教育施設視察
6月	豊田加茂学校保健会総会
	小学校球技大会
	少年の主張みよし市大会
7月	市中学校対抗カヌー大会
	小中学生思い出コンサート
	校長と教育委員の意見交換会
	豊田・みよし地区中学校総合体育大会
	小学生土別市派遣団結団式・解団式
	小学校水泳大会
	県外研修（石川県金沢市教育委員会・福井県越前市教育委員会）

8月	友好都市中学校派遣団結団式
	みよし市教育研究大会
	Eボート交流会
9月	友好都市中学校派遣団解団式
	市民カヌーポロ大会
	郷土芸能伝承活動発表会
	総合教育会議
	小学校陸上競技大会
10月	豊田みよし地区中学校体育大会新人戦
	教育委員辞令交付式
	みよし市体育祭
	コロンバス大使ウェルカムパーティー
	教育委員学校訪問
	南部小学校研究発表会
11月	文化の日記念式典、文化協会創立50周年記念文化祭、芸能発表会
	みよし市体育協会総合体育大会
	みよし音楽祭 市民合唱交流会
	小中学生夢の作品展
12月	みよし特別支援学校文化祭「はあとまつり」
	愛知県市町村対抗駅伝競走大会
	サンライブ視察
1月	新年教育研究大会
	みよし市成人式
	新春みよし市マラソン駅伝大会
2月	総合教育会議
	川淵三郎杯学校対抗サッカー大会
3月	小中学校卒業式
	生涯学習発表会
	みよし少年少女合唱団定期演奏会

第4章 学識経験者による意見

外部評価につきましては、次の方々から意見をいただきました。

みよし市教育振興基本計画の平成29年度施策実施状況をめぐる成果と課題

—学校教育を中心に—

名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 准教授 石井 拓児

みよし市教育振興基本計画の平成29年度施策実施状況をめぐる成果と課題

—社会教育・生涯学習を中心に—

愛知教育大学大学院 教育実践研究科 准教授 中山 弘之

学識経験者による意見 1

みよし市教育振興基本計画の平成29年度施策実施状況をめぐる成果と課題

—学校教育を中心に—

名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 准教授 石井 拓児

はじめに

最初に、平成29年12月に、「みよし市の教育に関するアンケート」が実施され、平成30年2月28日に開催された第2回みよし市教育振興基本計画推進委員会において本アンケート結果にもとづく協議がおこなわれ、平成29年度の教育施策・教育事業の実施状況に関する成果と課題を検討・分析していることについて、評価委員として重く受け止めている。

本アンケートは1か月の期間をかけ、無作為で抽出されたみよし市民および市内の小学校・中学校に在籍するすべての児童・生徒と保護者、教職員を対象に実施されていること、また、その質問項目は、経年比較が可能な事項に加え、新しい教育課題に関する事項を設定しており、質・量ともに十分な内容であったと評価しうる。アンケート結果を施策の点検に生かすための工夫と配慮を十分に汲み取ることができ、このような評価サイクルを確立したことそのものに、まずは大きな価値があることを確認して評価したい。今後も、この評価サイクルを維持しつつ、さらなるアンケートの改善に努められることを期待したい。

以下、本アンケート結果を適宜ふまえつつ、みよし教育プランの進捗状況について、とりわけ学校教育に関するもの（作戦⑤から⑬、⑯および⑰）について点検し、意見する。

1. みよし教育プラン「20の作戦」（重点施策）の実施状況について

まず、中3での35人学級の実現（作戦⑪）や、大規模改修工事やトイレのドライ化・洋式化（作戦⑫）など、教育条件・教育環境の整備面において充実ぶりが目立っており高く評価しうる。また、ICTの環境整備（作戦⑥）についても協議がすすみ、平成30年度におけるICT環境整備計画の作成とその後の具体的な整備に向けて、非常に期待できるものとなつている。

学級規模を小さくすることは、教員にとっては、ひとりひとりの細かな特長を把握することを可能にし、児童・生徒の多様なニーズに応えるためにも、最も重要な施策のひとつであるといえる。アンケートでは、教職員からの市教育委員会への要望として、「不登校・引きこもりに対する専門的支援（67%）」、「発達の問題・特別支援教育に対する専門的な支援（70%）」、「外国人児童・生徒やその家族に対する専門的な支援（60%）」で非常に高い数値となっており、また、「非行・暴力行為に対する専門的な支援」、「いじめ問題に対する専門的な支援」、「ネグレクトや虐待など家庭教育に対する専門的な支援」といった項目で急増していることが看取される。この間の作戦①、作戦④、作戦⑩における教育支援センターの積極的な事業活動および事業の拡大を評価しつつ、さらなる少人数学級の実施の可能性についても検討をすすめ、個別のニーズに対応する専門的支援員・指導員の各校への配置（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーや日本語教育指導員など、場合によっては常勤での配置など）も検討される必要があるのではないか。

授業づくり（作戦⑤）、ICT教育（作戦⑥）、外国語学習（作戦⑦）、道徳教育（作戦⑧）は、いずれも着実な取り組み状況にあると評価しうる。なかでも、作戦⑤において、「研修を充実させつつ、多忙化を招かない方法を模索し、新たな研究計画を作成した」ことは、今日の新しい教育課題に応じて当初の計画を柔軟に運用しようとするものとして、たいへんすばらしいと感じた。体力向上施策（作戦⑨）における「学習カード」や「ウォーミングアップドリル案」のように、作戦⑤から⑧においても、各学校での教材作成の負担軽減となるような施策が検討できるように思われた。

その点、12校の連携強化による教職員の資質向上（作戦⑬）において、市教育センターを開設し、「各校の研究物や文部科学省が作成した資料をライブラリに整理した」こと、および、今後、平成30年度においてこれらをリスト化し、ウェブ（校務支援システム）で掲示することができれば、教職員にとっては、教材作成の負担がかなり減ることになると期待でき、非常に価値のある取り組みであると思われた。

2. みよし教育プランにおける体系別全施策の実施状況について

「1 子育て世帯支援」に関しては、「(1) ウ児童発達支援事務所『よつば』での発達支援の推進」「(1) エ児童虐待の防止」「(2) ア放課後児童クラブにおける子育て支援の拡充」といった事業で、支援の「拡充」がすすめられており、評価できる。なお、子育て支援や家庭教育支援については、ともすれば子育てや家庭教育への行政的な介入となることも懸念されるため、「家庭教育における現状と問題点」や、「子育て支援の要望」、「放課後児童ク

ラブへの要望」については、できるだけ丁寧に「現状や問題点」を把握し、また個別に「要望」を聞き取るなどして、今後の課題の検証をすすめる必要があるように思われる。

「2仲間と進んで学ぶ子どもを育てる」、「3心豊かな子どもを育てる」、「4たくましい子どもを育てる」、「5個に応じた支援を充実させる」の各施策は、いずれも着実に実施されており、堅調な進捗状況にあると判断した。「学力定着に課題のある児童生徒への支援」として、新規に「45市全体の学習支援体制の見直し」がなされたこと、および、「インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」として新規に「104医療ケアの必要な子どもへの支援の検討」がなされていることを、いずれも今日的課題に対応するものとして評価する。これらの施策が、学校教育課・子育て支援課・福祉課相互のより綿密な連携・協力が必要となることに留意しつつ、前向きに取組をすすめられることに期待したい。

「6安心・安全・快適で信頼される学習環境を作る」は、とりわけ子どもの安全と安心こそが保護者・市民の学校へのいちばん大きなねがいであることをふまえ、学校教育に関する施策のなかでも要となるものであることに留意し、全体として順調な取組状況にあると評価した。ただし、2018年6月に発生した大阪北部地震における学校ブロック塀の崩壊による死亡事故の発生をふまえ、各学校ごとに、通学路を含む学校施設・設備を点検しなおすことや、今夏の猛暑・酷暑をふまえ、今後、普通教室に加え特別教室内の快適な勉学環境をどのようにして整備するのかなど、新たな検討課題が生じていることを付言しておきたい。

3. 最新の教育動向・教育課題を踏まえた計画の見直しに関する提言

研修の充実を図りつつ、教職員の多忙・多忙感をどのように解消するのかについて、研究プログラムの見直しなどの具体的な取組が開始されたことを高く評価したい。それでもなお、アンケートの自由記述には、教職員から、「部活動の負担軽減（9名）」、「事務的作業の負担軽減（3名）」、「教員の働き方改革支援（2名）」の要望があり、これに関わって「教職員の増員（5名）」、「SSW／SCなどの専門職員の配置（3名）」といった要望も示されている。教職員の増員や専門職員の配置は、みよし市の単独の施策のみで対応することは財政的な面で難しい課題であると思われるものの、同様の要望が、保護者「教職員の多忙化解消の推進（12名）」や市民「教職員の負担の軽減が必要だ（6名）」と少なくない数の自由記述にも示されており、真摯に対応することが求められている。とりわけ「事務的負担」とはどのような状況にあり、どのようにすれば改善可能なのかについて、検討を開始されたい。

部活動については、「部活の活動時間を長くしてほしい」という要望が、小学生9名、中学生15名、保護者16名から記述があるほか、「部活の種類を増やしてほしい」という要望が、小学生8名、中学生6名、保護者6名の記述がある。いずれの要望も、それぞれの部活動を担当する教員を増員するか、教員が複数以上の部活動の顧問を引き受けるかして対応するほかなく、教職員の大幅な多忙化を招くこととなるため、それぞれの学校での対応は不可能な課題であり、とくに小規模校では、児童生徒の人数の関係で、新しい種類の部活動を立ち上げることが現実的でない場合もある。総合型地域スポーツクラブ（作戦⑯）のいっそ

うの推進・充実という課題に取り組むことに、問題解決の糸口があるようと思われた。

一方、中学生から、「部活の活動時間を短くしてほしい（4名）」、「部活の活動時間を守つてほしい（3名）」、「部活が厳しくてつらい（2名）」、保護者から、「部活動の活動時間を減らす（6名）」、「部活動の自由参加化（3名）」といった記述が見られる。これらについては、学校ごと、あるいは部活動ごとに要望を把握し、対応していく必要がある。

最後に、アンケートの実施にあたり、改善点をあげておきたい。第一に、「重点施策」に対応するためのアンケート項目を加えてはどうかということである。例えば、35人学級の実施やトイレのドライ化・洋式化について、保護者、教職員、場合によっては子どもから、満足度や要求度といったことについて調査をすることはできないだろうか。第二に、すでに学校で実施されている「学校評価（授業評価）」等の活動に加え、本アンケートの実施等により、教職員・保護者・児童生徒の負担が増加していないかどうか、確認しておく必要がある。また、これらの評価活動を、より効率化する方法はないか、検討をすすめてほしい。

学識経験者による意見 2

みよし市教育振興基本計画の平成29年度施策実施状況をめぐる成果と課題

—社会教育・生涯学習を中心に—

愛知教育大学大学院 教育実践研究科 准教授 中山 弘之

はじめに

本稿では、教育振興基本計画にもとづくみよし市教育委員会の平成29年度の取組について、社会教育・生涯学習分野を中心に点検評価した所見について報告する。

1. 地域学校協働活動の発展の見通し

平成29年度における重点施策「20の作戦」の20番目には、「地域の人と一緒に学ぶ学校づくりをします」というテーマで、「学校ボランティアをきっかけとした地域教育力の結集」が施策として掲げられている。

そこでは、「市民への学校ボランティア制度の周知強化」を進めながら、平成31年度には「地域コーディネーターによるボランティアの派遣モデル実施」を行い、翌32年度から「地域コーディネーターの配置促進」を行う計画となっている。

日本国憲法第 26 条の教育を受ける権利の理念からすると、地域コーディネーターはモデル校のみの配置でとどまるのではなく、適宜配置を促進し、将来的には全市的に配置されることが望ましい。

また、「みよし市の教育に関するアンケート」の結果によると、地域の教育力活用については、保護者・市民・教職員ともに「積極的に進めるべき」と「子どもによくない影響を与えない範囲であれば進めてもよい」が合わせて 90% を越えており、地域学校協働には肯定的な意見が多い。一方で、実際の協働活動の内容については、資源回収などは保護者・市民・教職員ともに参加に肯定的な意見が 50% を越えているものの、その他の項目については、参加に肯定的な意見が少なかったり（授業補助・放課後指導の支援など）、教職員と保護者・市民で意識にズレがあったりするものもある（登下校時の安全管理、部活動の指導や運営、非行防止・生徒指導への協力など）。

地域学校協働活動は、一面では子どもの学校教育活動の一環であり、もう一面では地域における社会教育活動の一環である。したがって、その活動は、どちらにとってもメリットがあることが望ましいし、活動をすすめる上では保護者・市民や社会教育・生涯学習関係者と学校関係者の両方で合意があることが望ましい。

この点から言えば、まずは学校にとっても保護者・市民にとってもニーズが高い資源回収、また着実な歩みを進めているみよし未来塾からその充実を図ることが望ましいのではないだろうか。

まずはできるところから開始するということであっても、その活動を深化していく中で、普段の学校生活では見られない子どもの姿に市民が気づき、学校における指導のあり方をよりよくするきっかけになる、市民が学校における教育活動や教職員の仕事ぶりにふれ、学校教育に対する認識をあらためるきっかけになる、などの変化があるはずである。そのことをきっかけに、学校教育や地域の未来について情報交換する習慣がつくられていけば、結果的には、地域と学校の協働をより深めていくこうという機運の醸成につながると考えられるのである。

仕組みづくりは、実践の積み重ねの裏づけがあってこそ、その底力を發揮する。それは、はじめはささやかなものであっても構わない。みよし市における地域学校協働活動の発展に期待したい。

2. みよし未来塾のさらなる充実

作戦②「地域の人と一緒に学ぶ学校づくりをします」に関わって言えば、みよし未来塾も力を入れて取り組まれている事業である。

平成 28 年度にはサンライブ内で夏休みと冬休みに実施され、延べ 536 人が参加した。29 年度には夏休みに 10 日間延べ 375 人、冬休み 3 日間に延べ 105 人の参加によって行われた。しかも、冬休みには試験的に会場を 2 カ所に拡大して実施している（サンライブ、カリヨンハウス）。

このように、みよし未来塾は次第に充実してきていると言える。したがって、みよし未

来塾は今後ますます充実していくことが望ましい。具体的には次の点が考慮されるとよいのではないだろうか。

第一に、事業の定期化である。

みよし未来塾のような生活困窮その他の事情で学習につまずいている子どもの学習支援活動は現在全国各地で実施されるようになっているが、その多くが週1回程度のペースで定期的に行われている。こうした定期的な実施は、学習を子どもの生活習慣の一環として定着させるためにはとても重要である。みよし市においても、定期的に実施できる場所と時間が確保できることが望ましいと思われる。

第二に、実施場所のさらなる拡大である。

昨年度は試験的に2カ所に拡大して実施されたが、可能であれば各中学校区ごとに実施場所が確保されることが望ましいと考えられる。みよし市は南北に長い自治体であり、かつ公共交通機関の発達も十分とは言えない。したがって、現状の1カ所ないし2カ所では、通いづらい子どももいることが予想される。

それゆえ、各中学校区で社会教育施設等を活用して行われれば、多くの子どもにとって通いやすくなると思われるし、社会教育施設の活動も学校教育に絡む形で発展するきっかけにもなりうると考えられる。

第三に、居場所機能と学習機能の両立である。

学習につまずいている子どもは、対人関係にも不安を抱えている場合が多い。したがって、こうした子どもたちが落ち着いて学習に取り組むには、安心してその場に通えるという居場所の機能、安心して「分からない」と言えて助言を求めることができるスタッフの存在が必要不可欠である。スタッフの養成も含めた居場所機能の充実に重点が置けるかどうか。この点にみよし未来塾のさらなる充実の鍵があると思われる。

以上の3点が考慮されることで、学びにつまずく子どもが一人でも減らせることが期待される。

3. 生涯学習講座の活性化

平成29年度における重点施策「20の作戦」の14番目には、「サンライズでいろいろなことが学べるようにします」として、「サンライズの生涯学習拠点化の推進」が重点施策とされている。平成26年度では延べ2,235人の受講者だったのを、平成32年度には延べ4,500人に対することが成果指標として掲げられている。

これを受け、平成29年度には夜間講座を増やし、働く人の生涯学習支援を目指したが、同年度の受講した人の数は2,309人にとどまった。

「みよし市の教育に関するアンケート」によると、生涯学習をしたいと考えた時の課題として、47%が「時間の余裕がない」と答えている。この結果から考えると、夜間講座を増やしたもののみならず、土曜日、日曜日の講座の充実が必要であると考えられる。近年働く人の労働時間がますます長時間化している傾向から考えると、ぜひ検討されるべき事項であ

ると思われる。

そのためには、市民と同じ目線で対話でき、市民の生の声をつかみ、事業化できる専門的力量をもった社会教育職員の充実が鍵となる。可能であれば、夜間・土日の勤務も検討されることが望ましい。シフトなどの工夫が必要になってくるが、一度検討していただきたい。

また、同アンケートには、生涯学習をしたいと考えた時の課題として、「やってみたいが、経験がないので踏み切れない」を挙げている人が24%、「勉強・体験をする場所が少ない（遠い）」を挙げている人が23%いることも見逃せない。これは、単に講座内容の問題というよりは、社会教育施設が身近にあるのかどうかも関わっていると思われる。

可能であれば、市内各地に配置されている公民館など各種社会教育施設とサンライブが連携して、生涯学習講座が市内各地で開催されているような状況をつくりだすことが望まれる。また、市内各地にある社会教育施設で行われている市民の学習活動の成果を発表する機会が、より身近な範囲で開催されるようになれば、多くの市民にとって生涯学習を身近に感じてもらうことが可能になるだろうと思われる。

社会教育は地域主義を大きな特質としている。可能ならば、より身近な範囲における充実策の検討が期待される。

平成 30 年度(平成 29 年度実績) 教育委員会点検評価報告書

お問い合わせ先

みよし市教育委員会 学校教育課

〒470-0295 みよし市三好町小坂50番地

電 話 (0561)32-8026

F A X (0561)34-4379

E-mail gakko@city.aichi-miyoshi.lg.jp

ホームページ <http://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp/>

発 行 平成 30 年 8 月